授業概要

(科目名)	授業の種類	授業担当者
保育内容総論	講義	坂崎 恵子

授業の回数	(単位数) ※		配当学年	必修・選択	実務経験
15コマ	2	単位	第1学年	必修	○

[授業の目的・ねらい]
幼児教育の施設は、保育所と幼稚園が同列に位置づけられ、さらに、家庭・地域と連携して進める、子育て支援が法的に明確にされた国の方針や施策・社会情勢の変化に対応できる、理論と実践を学ぶ。

[授業全体の内容の概要]
保育は、子どもを健やかに育てる営みである。この営みが、保育所・幼稚園と二元的に行われてきたが、昨今、制度的な一元（体）化の方向にある。保育所と幼稚園の保育の総合性を大切に、保育内容を総論的にとらえる。

[授業修了時の達成課題（到達目標）]
保育士・幼稚園教諭の仕事は広がりつつあり、質の高い人材が求められている。情勢の変化に対応できる、保育に生かせる力を育てる。

コマ数	内　　容
1	保育内容を総論としてとらえる　○「保育」は幼稚園・保育所に共通の営み
2	○保育内容の総合的把握　○保育の総合的視点　○保育者の専門性
3	保育内容の変遷　○戦前の保育　○戦後の保育
4	保育の特質　○保育の目的　○幼児教育の特質（幼稚園教育要領）
5	保育の特質　○保育所保育の特質（保育所保育指針）
6	保育内容と保育の計画　○保育における計画　○指導計画の考え方　○具体的な指導計画
7	保育内容とその展開
8	○保育所・幼稚園における指導の特質　○環境を構成する
9	保育者論　○保育者への思い
10	保育者論　○保育者の人間性
11	保育者論　○実習をとおして保育内容を学ぶ
12	現代の保育の課題と保育内容　○生活環境の変化と保育内容
13	現代の保育の課題と保育内容　○保育所保育をめぐる状況の変化
14	現代の保育の課題と保育内容　○保護者支援　○新しい保育需要
15	まとめ

[使用テキスト・参考文献]	[単位認定の方法及び基準]
保育内容総論（新版）	授業内小テスト、授業への出席、態度 〈開講日について〉 5月9日、16日、23日、6月13日、20日、27日、7月4日、11日、18日の全10回で実施します。
	（試験やレポートの評価基準など）
	テーマ毎のワークシートの取組み、試験、授業への出席・態度により評価する。（私語、スマートフォンの利用、授業中の居眠りが見られた場合は評価の減点対象とする）

授業概要

(科目名)	授業の種類	授業担当者
社会的養護Ⅰ	講義	中本　吉弘

授業の回数	(単位数) ※		配当学年	必修・選択	実務経験
15コマ	1	単位	第1学年	必修	○

[授業の目的・ねらい]
1. 保育士に求められる「社会的養護」知識を修得していく。2. 同上の知識が社会的養護の実践場面で、如何に活用され、どの様な課題を抱えているか理解していく。3. 上記の過程を通して、保育士に求められる知識・技術及び豊かな人格形成に努める。

[授業全体の内容の概要]
1. 社会的養護の意義と基本理念・原理ついて理解する。2. 社会的養護における家庭的養護、施設養護の概念について理解する。3. 施設養護の実際とその運営管理について理解する。

[授業修了時の達成課題(到達目標)]
1. 保育士に求められる「社会的養護」の実践的知識を修得している。2. 上記の知識が保育・養護の実践場面に於いてどう活用され、どのような課題を抱えているか理解している。3. 以上の過程を通して、保育士に求められる豊かな知識・技術及び人格の基盤が培われている。

コマ数	内　　容
1	オリエンテーション；シラバス提示と授業展開及び評価基準の説明と合意。
2	社会的養護の意義と基本理念
3	社会的養護問題と家庭支援
4	社会的養護の基本原理①
5	同上②
6	社会的養護体系と家庭養護
7	社会的養護体系と施設養護
8	児童養護施設運営指針
9	家庭養護の実際
10	施設養護の実際
11	施設養護におけるソーシャルワーク
12	社会的養護施設の運営管理
13	社会適用後における児童虐待
14	保育士資格と倫理要綱
15	まとめ

[使用テキスト・参考文献]	[単位認定の方法及び基準]
1.社会的養護　新・基本シリーズ(中央法規)　2.「社会福祉小六法」(ミネルヴァ) 3.学びを深める福祉キーワード集(全国社会福祉協議会)	1.小テスト　；70%　　2.授業態度・意欲；30%
	(試験やレポートの評価基準など)
	1.小テスト；5点×14回＝70点　2.授業態度；2点×15回＝30点　【合計】100点満点；80点以上A・70点以上B・60点以上C・59点未満D(不合格)

授業概要

(科目名)	授業の種別	授業担当者
造形表現（指導法）	講義	山口　貴資

授業の回数	(単位数) ※		配当学年	必修・選択	実務経験
15コマ	2	単位	第1学年	必修	○

[授業の目的・ねらい]
幼児の造形内容を理解する。

[授業全体の内容の概要]
実習課題を通して体感すること。

[授業修了時の達成課題（到達目標）]
全てのテーマを達成すること。

コマ数	内　　容	
1	三原色	絵の具一式、コンパス
2	ピーマンの写生	ピーマン１個、エンピツ、消しゴム
3	紙ねん土による立体制作	紙ねん土白色１個、古新聞紙
4	紙ねん土に着色	絵の具一式
5	印象に残る心の風景	絵の具一式
6	昔懐かしい風景	絵の具一式
7	自画像写生	エンピツ、消しゴム、鏡（スタンド式）
8	自画像着彩	絵の具一式
9	子供のころの思い出	絵の具一式
10	これまで感動した光景画	絵の具一式
11	0	
12	0	
13	0	
14	0	
15	0	

[使用テキスト・参考文献]	[単位認定の方法及び基準]
0	平常点（出席状況、授業態度、提出物）小テスト、及び筆記・実技テストで総合的に評価する。
	（試験やレポートの評価基準など）
	総合評価で６０点以上を合格とする。

授業概要

〔科目名〕	授業の種類	授業担当者
造形表現（指導法）	講義	山口　貴貴

授業の回数	〔単位数〕※		配当学年	必修・選択	実務経験
10コマ	1	単位	第1学年	必修	○

〔授業の目的・ねらい〕
造形表現は表現領域からの発展、展開とする。幼児の絵画・造形指導に必要な基礎知識・表現技術を習得する。秋に幼児の発達段階に応じた実技指導が行える能力を養成する。

〔授業全体の内容の概要〕
基礎知識の理解のため講義と演習と並行して同時進行の授業とする。演習・実技を行い各自の感性を磨く。

〔授業修了時の達成課題（到達目標）〕
それぞれ全てのテーマを達成することを目標とする。

回数	内　　容
1	友人の顔スケッチ
2	友人の顔スクラッチ
3	風景スケッチ
4	感情表現
5	箱のスケッチ
6	箱のデザイン化
7	ドリッピング
8	スタンピング
9	ローリング
10	マーブリング
11	粘土による立体
12	金属による立体
13	想定画
14	自画像えんぴつ写生
15	まとめ・レポート

〔使用テキスト・参考文献〕	〔単位認定の方法及び基準〕
造形表現（指導法）	平常点（出席状況，授業態度，提出物）小テスト、及び筆記・実技テストで総合的に評価する。
	（試験やレポートの評価基準など）
	総合評価で６０点以上を合格とする。

授業概要

(科目名)	授業の種類	授業担当者
基礎ゼミナール	講義	高橋 敏

授業の回数	(単位数) ※		配当学年	必修・選択	実務経験
15コマ	2	単位	第1学年	必修	○

[授業の目的・ねらい]
自分特有の考え方や表現方法について気づく。また、自分の考えを分かりやすく説明すること、他の人の考え方を聴くこと、議論することを通し、自分の考えを文章化することを目的とする。対人援助の専門職の基礎能力として求められる観察能力、感性を高めるとともに、それを文章化し伝える能力を習得する。

[授業全体の内容の概要]
各担当教員の専門領域からのトピックについて考え、議論し、文章化する。必要に応じて自分の考えを裏付ける資料を作成することも求める。5~6回のオムニバス形式で実施する。

[授業修了時の達成課題(到達目標)]
言葉で説明すること、文章で表現することを学び、それを実習記録や卒業論文につなげる。

回数	内容
1	トピック1:自由に考えを述べる
2	トピック2:議論する(ディベート)
3	トピック3:議論する(ディベート)
4	トピック4:事実に基づいた議論を展開する
5	まとめ:テーマについての自分の考えをまとめる
6	トピック1:自由に考えを述べる
7	トピック2:議論する(ディベート)
8	トピック3:議論する(ディベート)
9	トピック4:事実に基づいた議論を展開する
10	まとめ:テーマについての自分の考えをまとめる
11	トピック1:自由に考えを述べる
12	トピック2:議論する(ディベート)
13	トピック3:議論する(ディベート)
14	トピック4:事実に基づいた議論を展開する
15	まとめ:テーマについての自分の考えをまとめる

[使用テキスト・参考文献]	[単位認定の方法及び基準]
なし	発表への取り組み、出席、授業参加意欲、レポートの提出の総合評価。前期後期の間に3冊分の読書感想文の課題を課し、それも評価に加える。
	(試験やレポートの評価基準など)
	総合評価で60点以上を合格とする。

授業概要

(科目名)	授業の種類	授業担当者
基礎ゼミナール	講義	高橋 毅

授業の回数	(単位数) ※		配当学年	必修・選択	実務経験
15コマ	2	単位	第1学年	必修	○

[授業の目的・ねらい]
自分特有の考え方や表現方法について気づく。また，自分の考えを分かりやすく説明すること，他の人の考え方を聴くこと，議論することを通し，自分の考えを文章化することを目的とする。対人援助の専門職の基礎能力として求められる観察能力，感性を高めるとともに，それを文章化し伝える能力を習得する。

[授業全体の内容の概要]
各担当教員の専門領域からのトピックについて考え，議論し，文章化する。必要に応じて自分の考えを裏付ける資料を作成することも求める。5~6回のオムニバス形式で実施する。

[授業修了時の達成課題（到達目標）]
言葉で説明すること，文章で表現することを学び，それを実習記録や卒業論文につなげる。

コマ数	内　　容
1	トピック1：自由に考えを述べる
2	トピック2：議論する(ディベート)
3	トピック3：議論する(ディベート)
4	トピック4：事実に基づいた議論を展開する
5	まとめ：テーマについての自分の考えをまとめる
6	トピック1：自由に考えを述べる
7	トピック2：議論する(ディベート)
8	トピック3：議論する(ディベート)
9	トピック4：事実に基づいた議論を展開する
10	まとめ：テーマについての自分の考えをまとめる
11	トピック1：自由に考えを述べる
12	トピック2：議論する(ディベート)
13	トピック3：議論する(ディベート)
14	トピック4：事実に基づいた議論を展開する
15	まとめ：テーマについての自分の考えをまとめる

[使用テキスト・参考文献]	[単位認定の方法及び基準]
なし	発表への取り組み，出席，授業参加意欲，レポートの提出の総合評価。 前期後期の間に3冊分の読書感想文の課題を課し，それも評価に加える。
	(試験やレポートの評価基準など)
	総合評価で６０点以上を合格とする。

授業概要

(科目名)	授業の種別	授業担当者
医学概論	講義	萩原　晶子

授業の回数	(単位数) ※		配当学年	必修・選択	実務経験
15コマ	2	単位	第1学年	選択必修1	○

[授業の目的・ねらい]
人体の構造と機能，疾病と障害の概要，疾病と障害による人体構造機能変化，それに伴う生活機能変化，リハビリテーションの概要，ICFの概要を理解する。

[授業全体の内容の概要]
基本的介護技術の習得，人の成長・発達，心身機能と身体構造の概要，ICFの基本的考え方，健康の捉え方，疾病と障害の概要，リハビリテーションの概要

[授業修了時の達成課題（到達目標）]
①食べる，行動する，排泄する，休む（眠る）などの生活行動を司る人体の構造と機能について　②その生活機能を低下させる主な疾病・障害について　また③機能低下の回復過程としてのリハビリテーションについて，それらの概要を説明できる。

回数	内　　容
1	(1) オリエンテーション　(2) 人の成長と発達　①（身体と精神の成長・発達について→乳幼児期から成長期
2	(2) 人の成長と発達　②（身体と精神の成長・発達について→老年期）
3	(2) 人の成長と発達　③（老化について，老化と成長・発達）
4	心身機能と身体構造の概要①人体各部の名称
5	心身機能と身体構造の概要②神経系，感覚器，皮膚の構造と機能について
6	心身機能と身体構造の概要③血液の成分と機能について
7	心身機能と身体構造の概要④循環器の構造と機能について
8	心身機能と身体構造の概要⑤消化器の構造と機能について
9	心身機能と身体構造の概要⑥泌尿器の構造と機能について
10	心身機能と身体構造の概要⑦支持運動器官の構造と機能について
11	心身機能と身体構造の概要⑧呼吸器の構造と機能について
12	心身機能と身体構造の概要⑨内分泌器官の構造と機能について
13	心身機能と身体構造の概要⑩生殖器の構造と機能について
14	健康の捉え方（WHO憲章による健康の定義），疾病と障害の概要（悪性腫瘍，生活習慣病の定義）
15	疾病と障害の概要（感染症，神経精神疾患）

[使用テキスト・参考文献]	[単位認定の方法及び基準]
1. 人体の構造と機能及び疾病　2. のほほん解剖生理学	小テスト　60／100点以上，出席日数，授業態度 （試験やレポートの評価基準など） 総合評価で６０点以上を合格とする。

授業概要

(科目名)	授業の種類	授業担当者
ソーシャルワーカーの基盤と専門職Ⅰ	講義	大西　史浩

授業の回数	(単位数) ※		配当学年	必修・選択	実務経験
15コマ	2	単位	第1学年	選択必修Ⅰ	□

[授業の目的・ねらい]
本科目では、社会への関心を広げるとともにソーシャルワークの意義や役割、構成要素、歴史、価値・倫理について学び、ソーシャルワーカーとしての価値・倫理を内面化することを目的とする。

[授業全体の内容の概要]
①ソーシャルワークが求められる社会状況について学ぶ。　②ソーシャルワークの概念、役割、意義について学ぶ。　③ソーシャルワークの構成要素、歴史について具体的な知識を身に付ける。　④ソーシャルワークの価値・倫理について学ぶ。

[授業終了時の達成課題（到達目標）]
ソーシャルワークの必要性や意義について理解し説明することができる。　様々な実践上の困難に直面した時に、ソーシャルワークの価値と倫理に根差して解決策を考えることのできる力を身に付ける。

コマ数	内　　容
1	オリエンテーション（講義内容と進め方・評価方法の説明）
2	現代社会と地域社会　ソーシャルワークが求められる社会状況
3	ソーシャルワークの意義と役割
4	相談援助の定義と構成要素Ⅰ　～ソーシャルワークの概念～
5	相談援助の定義と構成要素Ⅱ-1　～ソーシャルワークの構成要素①～
6	相談援助の定義と構成要素Ⅱ-2　～ソーシャルワークの構成要素②～
7	相談援助の展開過程Ⅰ
8	相談援助の展開過程Ⅱ
9	ソーシャルワークの形成史Ⅰ　～基礎確立の時期～
10	ソーシャルワークの形成史Ⅱ　～発展期から展開期～
11	総合的かつ包括的な相談援助の動向と背景
12	ジェネラリスト・ソーシャルワークの意義
13	ジェネラリスト・ソーシャルワークの基礎理論　～視点と特質～
14	相談援助に関わる専門職の概念と範囲
15	定期試験

[使用テキスト・参考文献]	[単位認定の方法及び基準]
相談援助の基盤と専門職	出席点、小テスト、定期試験で総合的に評価する。
	(試験やレポートの評価基準など)
	基本的な文章表現の作法が守られている、文章全体の展開が論理的である、自分が感じ・考えた事が他者に伝わるように具体的に言語化されている。

授業概要

(科目名)	授業の種類	授業担当者
ソーシャルワーカーの基盤と専門職Ⅱ	講義	大西　史浩

授業の回数	(単位数) ※		配当学年	必修・選択	実務経験
15コマ	2	単位	第1学年	選択必修1	□

(授業の目的・ねらい)
本科目では、社会への関心を広げるとともにソーシャルワークの意義や役割、構成要素、歴史、価値・倫理について学び、ソーシャルワーカーとしての価値・倫理を内面化することを目的とする。

(授業全体の内容の概要)
①ソーシャルワークが求められる社会状況について学ぶ。　②ソーシャルワークの概念、役割、意義について学ぶ。　③ソーシャルワークの構成要素、歴史について具体的な知識を身に付ける。　④ソーシャルワークの価値・倫理について学ぶ。

(授業修了時の達成課題(到達目標))
ソーシャルワークの必要性や意義について理解し説明することができる。　様々な実践上の困難に直面した時に、ソーシャルワークの価値と倫理に根差して解決策を考えることのできる力を身に付ける。

回数	内　容
1	オリエンテーション(講義内容と進め方・評価方法の説明)
2	相談援助の理念Ⅰ　～ソーシャルワークと価値～
3	相談援助の理念Ⅱ　～社会正義とソーシャルインクルージョン～
4	ソーシャルワーク実践と価値Ⅰ
5	ソーシャルワーク実践と価値Ⅱ
6	ソーシャルワーク実践と権利擁護Ⅰ　～権利擁護が必要とされる背景～
7	ソーシャルワーク実践と権利擁護Ⅱ　～権利侵害の実態～
8	権利を護る制度と仕組み
9	専門職倫理の概念
10	専門職倫理の内容と意義
11	ソーシャルワーク実践と倫理的ジレンマ
12	倫理的ジレンマに対する判断
13	総合的かつ包括的な相談援助における機能Ⅰ
14	総合的かつ包括的な相談援助における機能Ⅱ
15	定期試験

(使用テキスト・参考文献)	(単位認定の方法及び基準)
相談援助の基盤と専門職	出席点、小テスト、定期試験で総合的に評価する。
	(試験やレポートの評価基準など)
	基本的な文章表現の作法が守られている、文章全体の展開が論理的である、自分が感じ・考えた事が他者に伝わるように具体的に言語化されている。

授業概要

(科目名)	授業の種類	授業担当者
社会福祉の原理と政策Ⅰ	講義	岡根　麻美

授業の回数	(単位数) ※		配当学年	必修・選択	実務経験
15コマ	2	単位	第1学年	選択必修1	○

[授業の目的・ねらい]
今日の社会福祉を取り巻く状況は、少子高齢化と格差社会のため様々な問題が生してきている。社会福祉は特定の人々を対象としたものではなく、すべての人々が共に築いていくものである。この授業を通してそのような考え方を身に付けていく。

[授業全体の内容の概要]
現代におけるライフスタイルの変化を、家族、個人、そして地域社会との関係の中で考え、生活支援と福祉の基本的な体系を学ぶ。

[授業修了時の達成課題（到達目標）]
福祉専門職として求められる福祉サービスを理解する為に、その土台としての生活、生活支援や福祉の体系を理解する。

コマ数	内　　容
1	オリエンテーション
2	社会福祉とは？
3	日本の社会福祉のあゆみ
4	日本の社会福祉のあゆみ
5	社会福祉の実施体制（法律）
6	社会福祉の意義
7	社会福祉の役割
8	社会福祉の従事者
9	社会福祉の実施体制（法律）
10	社会福祉の実施体制（機関）
11	社会福祉の実施体制（施設）
12	暮らしを支える社会保障制度（社会保険）
13	社会福祉の方法（ケースワーク）
14	社会福祉の方法（グループ・コミュニティワーク）
15	社会福祉の方法（ケアマネジメント）

[使用テキスト・参考文献]	[単位認定の方法及び基準]
1.コメディカルのための社会福祉概論　2.社会福祉小六法2019年度版　3.社会福祉用語辞典	毎回のレポート及び小テスト10回の合計点70％　出席状況・授業態度30％
	(試験やレポートの評価基準など)
	総合評価で６０点以上を合格とする。

授業概要

(科目名)	授業の種類	授業担当者
社会福祉の原理と政策Ⅱ	講義	関根　麻美

授業の回数	(単位数) ※		配当学年	必修・選択	実務経験
15コマ	2	単位	第1学年	選択必修]	○

[授業の目的・ねらい]
今日の社会福祉を取り巻く状況は、少子高齢化と格差社会のため様々な問題が生じてきている。社会福祉は特定の人々を対象としたものではなく、すべての人々が共に築いていくものである。この授業を通してそのような考え方を身に付けていく。

[授業全体の内容の概要]
現代におけるライフスタイルの変化を、家族、個人、そして地域社会との関係の中で考え、生活支援と福祉の基本的な体系を学ぶ。

[授業修了時の達成課題（到達目標）]
福祉専門職として求められる福祉サービスを理解するために、その土台としての生活、生活支援や福祉の体系を理解する。

コマ数	内　　容
1	オリエンテーション
2	暮らしを支える社会保障制度（社会保険）
3	暮らしを支える社会保障制度（公的扶助）その1
4	暮らしを支える社会保障制度（公的扶助）その2
5	障害のある人の福祉　その1
6	障害のある人の福祉　その2
7	家庭福祉　その1
8	家庭福祉　その2
9	高齢者の福祉　その1
10	高齢者の福祉　その2
11	社会福祉の専門資格
12	社会福祉専門職の倫理
13	現代の福祉の状況
14	医療福祉
15	地域福祉

[使用テキスト・参考文献]	[単位認定の方法及び基準]
1.コメディカルのための社会福祉概論　2.社会福祉小六法2019年度版　3.社会福祉用語辞典	毎回のレポート70%　出席状況・授業態度30%
	(試験やレポートの評価基準など)
	総合評価で６０点以上を合格とする。

授業概要

(科目名)	授業の種類	授業担当者
ソーシャルワーク演習Ⅰ	演習	大西　史治

授業の回数	(単位数) ※		配当学年	必修・選択	実務経験
15コマ	1	単位	第1学年	選択必修1	○

[授業の目的・ねらい]
様々な困難な課題を持つ事例を通して，利用者の多面的理解と，権利擁護，フォーマル・インフォーマルな社会資源を活用し総合的かつ包括的な援助とは何か考察する。

[授業全体の内容の概要]
事例を通して，問題構造やニーズの把握，今後の予想，チームアプローチの方法や社会資源の活用など，具体的な援助過程を考える。さらに，ロールプレイにより利用者の気持ちに沿い，ソーシャルワーカーとしての態度を養い，より良い支援のありかたなどを体験により学ぶ。

[授業修了時の達成課題（到達目標）]
利用者理解を深め，エンパワメントできるよう支持的な態度と有効かつ適切な社会資源の活用，調査，開発への働きかけができる。

回数	内　　容
1	事例研究を通して，利用者の権利擁護・人間の尊厳について考え，討議する
2	家族ソーシャルワークの必要性・基本視点・対象と社会資源
3	虐待児童の援助技術展開過程（インテーク・アセスメント）ロールプレイによる面接
4	虐待児童の援助技術展開過程（プランニング・実施）
5	虐待児童の援助技術展開過程（モニタリング・効果測定）
6	虐待児童の援助技術展開過程（終結とアフターケア・まとめ）ロールプレイによる面接技術
7	虐待高齢者の援助技術展開過程（インテーク・アセスメント，プレゼンテーション含むカンファレンス）
8	虐待高齢者の援助技術展開過程（社会資源の活用・調査・開発を含めたプランニング）
9	虐待高齢者の援助技術展開過程（モニタリング・効果測定）
10	虐待高齢者の援助技術展開過程（終結とアフターケア・プレゼンテーション含むカンファレンス・まとめ）
11	家庭内暴力事例の援助技術展開過程（インテーク・アセスメント）ロールプレイによる面接
12	家庭内暴力事例の援助技術展開過程（プランニング・実施・プレゼンテーション含むカンファレンス）
13	家庭内暴力事例の援助技術展開過程（モニタリング・効果測定）
14	家庭内暴力事例の援助技術展開過程（終結とアフターケア・まとめ）
15	まとめ（社会にある福祉的課題を用い，社会資源の活用・調査・開発について討議する）

[使用テキスト・参考文献]	[単位認定の方法及び基準]
なし	テストの成績及び通常授業における授業態度，参加度・提出物等を評価
	（試験やレポートの評価基準など）
	総合評価で６０点以上を合格とする。

授業概要

(科目名)	授業の種類	授業担当者
ソーシャルワーク演習Ⅱ	演習	大西　史浩

授業の回数	(単位数)※		配当学年	必修・選択	実務経験
15コマ	1	単位	第1学年	選択必修1	□

[授業の目的・ねらい]
集団援助技術の技法を事例を用いて学ぶ。ロールプレイにより、グループの理解、集団力動性を学び、利用者理解とともに自己への気づきをもとに援助技術を高める。また、地域にある課題を理解し、ニーズの把握・実践の方法を体験的に学ぶ。

[授業全体の内容の概要]
身近な問題から始め、障害者・高齢者・ホームレス・ひきこもり・ニート問題など様々な社会的な排除を受けている人々などの地域にある問題まで、様々な事例を用いてニーズを把握し、アセスメント、プログラミング、評価をすることによって、集団援助技術と地域援助技術を学ぶ。さらに、自分の住む地域での実践の場への参加を課題とする。

[授業修了時の達成課題(到達目標)]
集団援助技術の理論を体験により具体的な理解と実践できる力を養う。また、個人や家族、地域にある課題を事例として用いることにより、地域ニーズを把握し、人権・権利擁護の理解を深め、アウトリーチの展開・コミュニティへのアプローチ、ネットワーキングのあり方などを学ぶ。さらに、現場での体験で理解を深めワーカーとして養うべき資質を実感する。

コマ数	内　　容
1	グループワークの共通技術Ⅰ(対象の設定・枠組みの構想・対象者理解)
2	グループワークの共通技術Ⅱ(ロールプレイによるグループでの話し方・傾聴の技法、相互作用の促進)
3	グループワークの共通技術Ⅲ(集団規範の形成・プログラム分析と立案・プレゼンテーション)
4	グループワークの過程技術Ⅰ(準備・波長あわせ・初回セッション・相互システム形成の理解)
5	グループワークによる相互援助システムの理解と活用
6	グループワークの終結と移行(援助者の役割について検討)
7	地域住民に対するアウトリーチとニーズ把握(基本的に自分の住む地域を対象とする)
8	地域ニーズの理解と社会資源の活用・調整・開発についてグループワーク
9	組織内でのネットワーキング・コミュニティネットワーク形成について理解Ⅰ(実践の場への参加)
10	組織内でのネットワーキング・コミュニティネットワーク形成について理解Ⅱ(実践の場への参加)
11	コミュニティワーク実践現場報告(グループ内で検討・プレゼンテーション)
12	コミュニティワーク事例検討Ⅰ(地域ニーズの発見・地域へのアプローチの方法理解)
13	コミュニティワーク事例検討Ⅱ(実践の方法・組織化と資源開発への理解)
14	コミュニティワーク事例検討Ⅲ(地域福祉の計画を考える)
15	まとめ(プレゼンテーションと評価)

[使用テキスト・参考文献]	[単位認定の方法及び基準]
なし	テストの成績及び通常授業における授業態度、参加度、提出物等を評価 (試験やレポートの評価基準など) 総合評価で60点以上を合格とする。

授業概要

（科目名）	授業の種類	授業担当者
サービス演習	演習	山本　久美

授業の回数	（単位数）※		配当学年	必修・選択	実務経験
15コマ	1	単位	第1学年	選択必修1	○

[授業の目的・ねらい]
①福祉専門職はサービス職であるという認識を深めること。②これからの福祉領域におけるサービス提供者に求められる意識や知識，対人技法などを身につけること。

[授業全体の内容の概要]
「サービス」の特性や提供する意義，提供する上での難しさ等について学習する。その上で，サービス提供に必要な接遇知識，接遇技能を演習を取り入れた授業により体得する。

[授業修了時の達成課題（到達目標）]
一般的なビジネスマナーや話し方，立居振る舞いなどの基本的知識や対人技法を習得することにより，実習や就職活動にも役立つ言動を身につける。また，サービス提供者としての意識，行動様式も身につける。

コマ数	内　　容
1	オリエンテーション
2	サービスについての基礎知識
3	接遇の基本，職場のマナー
4	接遇技能演習 (1) 挨拶
5	接遇技能演習 (2) 身だしなみ　　実技テスト (挨拶)
6	接遇技能演習 (3) 言葉づかい（基礎知識）
7	接遇技能演習 (4) 言葉づかい（敬語の基本と留意点）
8	接遇技能研修 (5) 言葉づかい（福祉サービスにおける話し方）
9	電話応対　留意点，応対マナー
10	電話応対　受け方，かけ方の基本
11	接遇応対　訪問マナーの基礎知識
12	接遇応対　態度・動作の留意点
13	接遇応対／電話応対　　総合演習
14	まとめ，総復習テスト
15	実技テスト

[使用テキスト・参考文献]	[単位認定の方法及び基準]
サービス演習テキスト	平常点（出席状況，授業態度，提出物）小テスト，及び筆記・実技テストで総合的に評価する。
	（試験やレポートの評価基準など）
	総合評価で６０点以上を合格とする。

授業概要

(科目名)	授業の種類	授業担当者
児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度	講義	原田　旅子

授業の回数	(単位数) ※		配当学年	必修・選択	実務経験
15コマ	2	単位	第2学年	必修	○

[授業の目的・ねらい]
子どもが生きる力を獲得するには、家庭及び地域・社会のあり方が大きく影響する。そこで、現代社会の状況を把握することにより、未来を担う子どもたちにとって、今、何が必要か、支援ニーズを明らかにし、支援の方法を考える。

[授業全体の内容の概要]
児童福祉の法体系や具体的なサービス体系の現状及び児童（子ども）の権利保障の考え方の変遷等を学び、現在、児童福祉の課題となっている子ども虐待や子育て不安の問題について、原因や対応策を考える。その過程で児童福祉から子ども・家庭福祉への展開の必然性と新たな視点からの児童福祉の専門性について理解を深める。

[授業修了時の達成課題（到達目標）]
専門職や生活者として、子どもや家庭が抱えている問題・ニーズに気づき、把握する感性、力が身についている。さらに、子ども一人ひとりの存在そのものが大切であるという確固たる信念に支えられた子ども・家庭福祉専門職としての基本的態度が育っている。そして、いかに困難な状況におかれていようとも、屈することなく状況に立ち向かい積極的に支援に関わっていくことのできるソーシャルワーカーや保育士等専門職の支援方法を習得している。

回数	内　　容
1	子どもの育ちと現代社会－児童福祉から児童家庭福祉へ
2	児童福祉の歴史的展開
3	世界の子どもたちの現状と”子どもの権利”
4	子どもの権利保障とその歴史
5	「児童（子ども）の権利条約」を読む
6	「児童（子ども）の権利条約」と日本の子ども（子どもの権利ノート）
7	児童家庭福祉を支える法律（児童福祉6法）
8	児童家庭福祉を支えるその他の法律
9	児童家庭福祉の実施体制　①－行政機関
10	児童家庭福祉の実施体制　②－児童福祉施設
11	児童家庭福祉の実施体制　③－在宅支援
12	子ども家庭にかかわる福祉の支援①－母子保健・健全育成施策
13	子ども家庭にかかわる福祉の支援②－子ども虐待への対応
14	子ども家庭にかかわる福祉の支援③－障害を持つ子どもへの支援－
15	まとめ・定期試験、解説

[使用テキスト・参考文献]	[単位認定の方法及び基準]
なし	試験・レポート・出席状況・授業態度等総合評価 （試験やレポートの評価基準など） 小テスト平均点60点以上、定期テスト60点以上、レポート類はA.B.C.評価で[以上

授業概要

(科目名)	授業の種類	授業担当者
子どもの保健	講義	小松田　よし子

授業の回数	(単位数) ※		配当学年	必修・選択	実務経験
15コマ	2	単位	第2学年	必修	○

[授業の目的・ねらい]
子どもの特徴を理解し、正常な発達のために必要な援助、人権を尊重し、子どもの思いと意欲を大事にした保育ができるようになる。

[授業全体の内容の概要]
成長・発達と共に変化する心身の発育を理解する。視聴覚教材によっても、子どもの健全な育成を理解する。

[授業修了時の達成課題(到達目標)]
心身の変化の著しい時期に携わる保育者としての対応が、子どもの成長・発達に大きな影響を与えることを認識して、子どもに関わっていける保育者になる。

コマ数	内　　容
1	オリエンテーション・序論　　講義の概要　「子どもの保健」を学ぶ目的　エキスパートへの道
2	Ⅰ　子どものための保健活動　1 子どもの保健という学問　2 子どもの保健の対象(範囲)
3	Ⅱ　身体発育と保健　1 発育の原則
4	2 乳幼児の身体計測値と評価(計測の方法は「小児保健実習」で行う)
5	Ⅲ　生理機能の発達と保健　1 脳と神経　　2 体温
6	3 水分代謝　　4 循環
7	5 呼吸、心拍、血圧
8	6 消化吸収
9	7 排泄
10	8 睡眠　　9 免疫
11	Ⅳ　運動機能の発達と保健　1 新生児と新生児の運動機能発達
12	2 乳児の運動機能発達　3 幼児の運動機能発達
13	Ⅴ　精神機能の発達と保健　1 言語の発達　2 社会性の発達　3 情緒の発達
14	4 発達の評価　　5 発達に影響する要因
15	まとめ　　テスト

[使用テキスト・参考文献]	[単位認定の方法及び基準]
よくわかる子どもの保健	履修後の試験、小テスト、出席状況の総合評価 (試験やレポートの評価基準など) 60点以上

授業概要

(科目名)	授業の種別	授業担当者
子どもの食と栄養	講義	志村　陸子

授業の回数	(単位数) 単		配当学年	必修・選択	実務経験
15コマ	2	単位	第2学年	必修	○

[授業の目的・ねらい]
子どもの食と栄養が、豊かな人間性と健康な身体を作る基礎であることを理解し、正しい知識を習得することで、保育の実践に活かせる力を身に付ける。自分自身の食生活を振り返り、健康増進につながる食生活を目指す。

[授業全体の内容の概要]
栄養に関する基本的知識を習得して、妊娠期から離乳期までの食事の基本、乳汁栄養から離乳食への変化を講義・実習で理解する。又、子ども達が食事を楽しむことの大切さを学び、幼児期以降の食生活につなげる。

[授業修了時の達成課題（到達目標）]
栄養に関する基本的知識を習得して、子どもの発育・発達段階に応じた食生活を理解する。

コマ数	内　　容
1	子どもの食と栄養を学ぶ意義
2	子どもの食生活の現状
3	栄養に関する基本的な知識　栄養とは・・・　栄養素とは・・・　五大栄養素
4	栄養に関する基本的な知識　炭水化物・タンパク質
5	栄養に関する基本的な知識　脂質・ビタミン・ミネラル
6	栄養に関する基本的な知識　消化と吸収
7	栄養に関する基本的な知識　食生活の振り返り
8	子どもの発育・発達
9	妊娠期の食生活
10	授乳期の食生活
11	乳児期の食生活　母乳栄養と人工栄養
12	乳児期の食生活　離乳食について
13	乳児期の食生活　離乳食の進め方
14	乳児期の食生活　［実習］調乳・離乳食
15	前期のまとめ

[使用テキスト・参考文献]	[単位認定の方法及び基準]
子育て子育ちを支援する　子どもの食と栄養	小テスト、課題、授業中の態度、欠席・遅刻 （試験やレポートの評価基準など） 小テスト(点数)、課題(提出の有無)、授業中の態度(おしゃべり・居眠り)　欠席・遅刻の回数

授業概要

〔科目名〕	授業の種類	授業担当者
子どもの食と栄養	講義	志村　陸子

授業の回数	〔単位数〕※		配当学年	必修・選択	実務経験
10コマ	1	単位	第2学年	必修	○

〔授業の目的・ねらい〕
子どもの食と栄養が，豊かな人間性と健康な身体を作る基礎であることを理解し，正しい知識を習得することで，保育の実践に活かせる力を身に付ける。自分自身の食生活を振り返り，健康増進につながる食生活を目指す。

〔授業全体の内容の概要〕
幼児期の生活リズムの大切さとおやつの重要性を講義と実習で学ぶ。思春期までの食生活の現状を知ることで，乳児期・幼児期の食生活の重要性をさらに理解する。食育推進の取り組みを学ぶ。児童福祉施設や特別な配慮を必要な子どもの食と栄養について学ぶ。

〔授業修了時の達成課題（到達目標）〕
様々な環境の子ども達を支援できるように子どもの食事と栄養について理解し，子ども達への食育又保護者支援を実践する力を身に付ける。

回数	内　　容
1	幼児期の食生活
2	幼児期の食生活　間食の意義
3	幼児期の食生活　〔実習〕おやつ
4	学童期・思春期の心身の発達と食生活
5	障害発達と食生活
6	食育の基本と内容
7	家庭や児童福祉施設における食事と内容
8	特別な配慮を要する子どもの食と栄養（疾病及び体調不良の子どもへの対応）
9	特別な配慮を要する子どもの食と栄養（障害のある子どもへの対応）
10	後期のまとめ
11	0
12	0
13	0
14	0
15	0

〔使用テキスト・参考文献〕	〔単位認定の方法及び基準〕
子育て子育ちを支援する　子どもの食と栄養	テスト，課題，授業中の態度，欠席・遅刻
	〔試験やレポートの評価基準など〕
	テスト（点数），課題（提出の有無），授業中の態度（おしゃべり・居眠り）欠席・遅刻の回数

授業概要

〔科目名〕	授業の種別	授業担当者
障害児保育	講義	三谷 美子

授業の回数	〔単位数〕※		配当学年	必修・選択	実務経験
15コマ	1	単位	第2学年	必修	○

〔授業の目的・おらい〕
・障害を考える視点から実際の職場において、特別な支援を必要とする子どもへの支援とケアについて具体的に考えられるようになる。

〔授業全体の内容の概要〕
・各障害の特徴を理解できるよう具体的な内容とその支援とケアについて提示する。
・特別な支援を必要とする子どもをイメージできるよう、事例を提示し適切な支援について想像し考える。

〔授業修了時の達成課題（到達目標）〕
・障害児保育の授業を通じて、個々の学生が障害を考える視点や各障害の特徴を理解し実際の現場において考えられるようにする。

コマ数	内　　容
1	オリエンテーション、障害を考える視点と障害保育の歴史、特別な支援を必要とする子どもとは
2	乳幼児期の諸領域の発達過程の理解とその支援について
3	障害のある子どもの理解：身体障害①肢体不自由、病弱、身体虚弱、視覚・聴覚障害の特性の理解1
4	障害のある子どもの理解：身体障害①肢体不自由、病弱、身体虚弱、視覚・聴覚障害の特性の理解2
5	障害のある子どもの理解：神経発達障害②知的障害の特性の理解、知能検査と発達検査の紹介1
6	障害のある子どもの理解：神経発達障害②知的障害の特性の理解、知能検査と発達検査の紹介2
7	障害のある子どもの理解：神経発達障害③コミュニケーション障害、自閉症スペクトラム（ASD）
8	障害のある子どもの理解：神経発達障害④注意欠如多動性障害（ADHD）、学習障害（LD）
9	障害のある子どもの理解：神経発達障害⑤運動障害の理解について情緒の障害の併発について
10	障害の知識を基に行うケース検討（グループワーク）
11	障害の知識を基に行うケース検討（グループワーク）
12	具体的な支援方法を考える・支援の手順①
13	具体的な支援方法を考える・支援の手順②
14	授業内容の振り返りと自主学習
15	テスト：神経発達障害についての概要と支援方法についてのまとめ

〔使用テキスト・参考文献〕	〔単位認定の方法及び基準〕
テキストは使用しない 参考文献：障害児保育ワークブック　萌文書林、子どもの発達障害　講談社、LD（学習障害）のある子を理解して育てる本　Gakken、その他適宜に使用する 文部科学省統計等	下記の内容を総合的に評価して単位を認定する。授業欠席は小テストを受けないため評価が低くなる。 （試験やレポートの評価基準など） 総合評価で60点以上を合格とする。

授業概要

(科目名)	授業の種類	授業担当者
幼児と造形表現	講義	山口 貴彦

授業の回数	(単位数) ※		配当学年	必修・選択	実務経験
15コマ	2	単位	第2学年	必修	○

[授業の目的・ねらい]
1年次の造形表現からの発展・展開とする。

[授業全体の内容の概要]
基礎知識の理解のため講義と演習と並行して同時進行とする。

[授業修了時の達成課題(到達目標)]
それぞれ全てのテーマ全課題提出を目標とする。

コマ数	内容
1	保育現場で使えるおもちゃ作成1
2	保育現場で使えるおもちゃ作成2
3	保育現場で使えるおもちゃ作成3
4	保育現場で使えるおもちゃ作成4
5	色彩①三原色・12色環
6	色彩②三要素・補色対比
7	色彩構成・ワールドカップ1
8	色彩構成・ワールドカップ2
9	色彩構成・季節感1
10	色彩構成・季節感2
11	紙による立体制作(共同制作)1
12	紙による立体制作(共同制作)2
13	自由画1
14	自由画2
15	小テスト

[使用テキスト・参考文献]	[単位認定の方法及び基準]
随時提示する	平常点(出席状況、授業態度、提出物)小テスト、及び筆記・実技テストで総合的に評価する。
	(試験やレポートの評価基準など)
	総合評価で60点以上を合格とする。

授業概要

(科目名)	授業の種類	授業担当者
社会的養護Ⅱ	講義	宮内 智

授業の回数	(単位数) 来		配当学年	必修・選択	実務経験
10コマ	1	単位	第2学年	必修	○

[授業の目的・ねらい]
社会的養護における理念の理解と、理念の実現のための実践内容の理解や認識を深める。

[授業全体の内容の概要]
児童養護施設における児童養護の日々の営みの具体的行為の概略と現在の課題を学ぶ。また、児童の特殊性を踏まえながらコミュニケーションに焦点を当てながら福祉の対人援助としての基本的態度を学ぶ。できるだけロールプレイやグループワーク等を通して他人事の問題ではなく私の事の問題でもある視点で学べることを試みる。主体的に学び、感性を磨く授業なので前日は、よく寝て授業に臨んで下さい。「Don't think.Feel! And thinking」

[授業修了時の達成課題(到達目標)]
児童養護施設における児童養護の日々の営みの具体的行為の概略を理解する。児童の入所理由と心理的な支援の必要性を理解する。児童の特殊性を踏まえながら信頼関係を築くためのコミュニケーション技術の基本を理解する。福祉の対人援助職としての働く上での基本姿勢や児童の権利擁護及び職業倫理を理解する。他人を理解することは、自分を理解することにつながることの自己覚知の重要性を理解する。社会的養護を通して、家庭支援、児童家庭福祉、地域福祉について理解や認識を深める。

コマ数	内容
1	社会的養護内容の概要：概要の理解と対人援助職の基本姿勢の理解を学ぶ。
2	社会的養護の実施体系：法体系・施設種別体系から学ぶ。
3	演習：児童養護施設に入職して6ヶ月で辞めた職員の実例(ビデオ)を通して離職の役割とチームワークの大
4	日常生活援助の実際：保育のいじめられている園児の実例(ビデオ)を通して、特にコミュニケーション技法
5	児童虐待の現状と支援の実際：実例のビデオを通して虐待される側、する側の心のあり様と支援の仕方や留
6	他の社会的養護の実践：里親の実例(ビデオ)を通して里親の役割や家庭の絆について学ぶ。
7	演習：親を自殺で失った児童の実例(ビデオ)をロールプレイを通して、傾聴と受容、共感的理解の大切さを
8	児童の権利擁護や倫理綱領の意義と保育士の倫理綱領の内容を具体的に学ぶ。
9	他の社会的養護実践：療育の視点を通して障害の理解と障害児の関わり方の一部を学ぶ。
10	児童相談所の役割：事例検討を通して児童養護施設の家庭支援の在り方や関係機関との連携の取り方を学ぶ
11	0
12	0
13	0
14	0
15	0

[使用テキスト・参考文献]	[単位認定の方法及び基準]
よくわかる社会的養護内容	1日目と2日目に試験をします。選択式と記述式。1日目50点、2日目50点の計100点とし、60点以上で合格とする。授業参加態度を含め総合的に評価します。
	(試験やレポートの評価基準など)
	100点満点に対し、60%以上合格

授業概要

(科目名)	授業の種類	授業担当者
保育原理	講義	山崎　隆史

授業の回数	(単位数) ※		配当学年	必修・選択	実務経験
15コマ	2	単位	第2学年	必修	○

[授業の目的・ねらい]
保育の本質を理解し、人間形成に重要な乳幼児期に関わるものとしての責務の重大さを認識し、また近年激しく変化している保育に関する制度や法律、現状を正しく理解し、専門家としての知識を深める。

[授業全体の内容の概要]
保育の歴史、意義、制度を正しく理解し、現代社会を背景にした幼稚園、保育所、およびその一元化(一体化)に向けての情勢を学ぶ。保育所保育指針、及び幼稚園教育要領の制度的位置づけ、及び内容を理解し、保育の方法、計画から実践、反省、評価、記録に至るまで、保育の概要を学ぶ。

[授業修了時の達成課題(到達目標)]
保育への理解を深め、保育、および子育ての現状を理解し、保育者としての知識を深める。保育の専門家を目指す者としての自覚を持ち、役割を認識し、専門性を身につけ、「子ども」「家族」「地域育児」を理解できるようになること。

回数	内　　容
1	子どもを取り巻く社会の現状
2	「保育」とは何か－「保育」という言葉の理解
3	乳幼児の特質と保育の意義　①人間のこどもの特質と保育の必要性
4	乳幼児の特質と保育の意義　②乳幼児の発達的特質
5	我が国の乳幼児保育の現状
6	保育士の専門性
7	保育の思想と歴史的変遷
8	海外の保育制度
9	幼稚園教育要領・保育所保育指針における保育の基本
10	子どもを取り巻く環境
11	遊びの教育的役割
12	保育の方法形態
13	保育の計画－実践
14	保育の反省・評価・記録
15	家庭・地域との連携と保育のこれから

[使用テキスト・参考文献]	[単位認定の方法及び基準]
保育原理	小テスト
	(試験やレポートの評価基準など)
	試験成績　小レポート等提出物　受講態度　出席状況

授業概要

(科目名)	授業の種類	授業担当者
幼児への特別な支援	講義	高橋 愛

授業の回数	(単位数) ※		配当学年	必修・選択	実務経験
15コマ	1	単位	第2学年	必修	□

[授業の目的・ねらい]
保育現場を中心に関わる障害の知識の習得と理解を深める。実践に向けた基盤を作っていく。

[授業全体の内容の概要]
・障害児者を取り巻く現境と歴史について・障害児保育の意義について・障害の基本的知識と対応への理解・障害児の家族の理解について

[授業修了時の達成課題（到達目標）]
障害の基本的知識を習得し、それをもとに支援方法を検討できる

コマ数	内　　容
1	障害者のこれまで（歴史的背景）
2	障害児保育の意義
3	自己理解（個別ワーク）テーマ：外在化
4	保育現場で出会うことの多い障害児（知的障害）
5	保育現場で出会うことの多い障害児（自閉症スペクトラム）
6	保育現場で出会うことの多い障害児（注意欠如、多動性障害）
7	保育現場で出会うことの多い障害児（気になる子ども）
8	障害児への保育上の配慮：個別での関わり方，集団における配慮
9	障害児の家族への理解
10	障害の知識を基に行うケース検討（グループワーク）
11	具体的な支援方法を考える・支援の手順①
12	具体的な支援方法を考える・支援の手順②
13	児童発達支援施設見学・演習
14	児童発達支援施設見学・演習
15	まとめ

[使用テキスト・参考文献]	[単位認定の方法及び基準]
まくわかる障害児保育	授業への出席，授業内レポートの提出
	(試験やレポートの評価基準など)
	総合評価で６０点以上を合格とする。

授業概要

(科目名)	授業の種別	授業担当者
子ども家庭支援の心理学	講義	前崎 虎千

授業の回数	(単位数) ※		配当学年	必修・選択	実務経験
15コマ	2	単位	第2学年	必修	○

[授業の目的・ねらい]
・子どもの発達にかかわる心理学の知識を習得する。・乳幼児期の子どもの発達の特徴について理解する。・乳幼児期の経験の重要性について理解し、保育者として子どもへの適切なかかわり方を考察する。

[授業全体の内容の概要]
乳幼児心理学の研究資料に基づいて、知覚・運動・愛着・模倣・認知・情緒・言語・社会性などの心理の諸機能の発達について学ぶ。

[授業修了時の達成課題(到達目標)]
・乳幼児期の子どもへの発達過程を理解する。・乳幼児期の子どもへのかかわり方について、発達に基づいて考察する。

コマ数	内容
1	子どもの発達を理解することの意義・発達理論
2	人との相互的かかわり－愛着の発達
3	知覚・運動機能の発達
4	認知の発達：ピアジェ理論（1）
5	認知の発達：ピアジェ理論（2）
6	記憶の発達
7	情緒と動機づけの発達
8	言語の発達
9	集団生活の健康
10	計画の必要性と意義①
11	計画の必要性と意義②
12	遊びと社会性の発達①
13	遊びと社会性の発達②
14	乳幼児発達の総合的理解①
15	乳幼児発達の総合的理解②

[使用テキスト・参考文献]	[単位認定の方法及び基準]
適宜プリントを配布する	平常点（出席状況、授業態度、提出物）小テスト、及び筆記・実技テストで総合的に評価する。 (試験やレポートの評価基準など) 総合評価で60点以上を合格とする。

授業概要

(科目名)	授業の種類	授業担当者
保育実習事前事後指導(施設)	講義	関根　麻美

授業の回数	(単位数) ※		配当学年	必修・選択	実務経験
10コマ	1	単位	第2学年	選択	○

[授業の目的・ねらい]
保育実習(施設)の意義・目的・内容といった保育実習(施設)の全体的な枠組みを概説する。それに続いて、具体的な内容を通して児童福祉施設実習(保育所以外)についての授業を行う。

[授業全体の内容の概要]
・児童福祉施設の社会的役割、種類、内容などについての事前学習
・各自設定した、児童福祉施設における実習目標、課題、学習計画にそって、施設実習にむけた準備

[授業修了時の達成課題(到達目標)]
・保育実習(施設)の全体的な枠組みを理解し、実習に臨む心構えを作る
・指導計画案の作成や実習日誌の書き方などに関わる知識と技術を身に着ける
・実習の総括と自己評価を行い、新たな課題や学習目標を明確にする

回数	内　　容
1	施設実習に関する基礎的理解と諸注意
2	施設の役割と機能について
3	施設の役割と機能について
4	施設実習の実習記録作成について(実習日誌の書き方)
5	施設実習の実習記録作成について(指導案の書き方)
6	保育実習の意義と目的　・実習記録の意義・記録の方法、書き方、保育の反省
7	望ましい保育者像をめざして　・保育者としての人格や態度
8	保育内容と方法　・改定保育所保育指針による保育目標、保育環境
9	保育過程と指導計画　・カリキュラム、指導案の立て方
10	保育の実際　・基本的生活習慣、健康安全の管理と指導、遊びとその指導(絵本、紙芝居、手あそび、素話
11	0
12	0
13	0
14	0
15	0

[使用テキスト・参考文献]	[単位認定の方法及び基準]
なし	①施設実習事前レポート40%　②「保育実習Ⅰ」の実習事後レポート40%　③授業への積極的参加と課題等提出20%
	(試験やレポートの評価基準など)
	総合評価で60点以上を合格とする。

授業概要

(科目名)	授業の種別	授業担当者
保育実習事前事後指導（施設）	講義	関根　麻美

授業の回数	(単位数) ※		配当学年	必修・選択	実務経験
10コマ	1	単位	第2学年	選択	○

[授業の目的・ねらい]
保育実習は、その習得した教科全体の知識・技能を基礎とし、これらを総合的に実践する応用能力を養うため、乳幼児に対する理解を通じて保育の理論と実践の関係について習熟させる。

[授業全体の内容の概要]
保育所保育の役割を理解し、保育の理論と技能を基礎として、実践的な力量を備える。

[授業修了時の達成課題（到達目標）]
保育所実習を行うために、自分自身が考え、努力し、やり遂げ、さらに研鑽を重ねていけるような手立てを身に付ける。

コマ数	内　　容
1	保育の意義　・子どもをとりまく保育環境、養護と保育の一体化
2	・保育所の機能、保育に欠ける子どもの保育、入所基準
3	保育所と幼稚園の関係　・制度的相違
4	保育所保育の特性　・３歳未満児の保育・長時間保育と長期間保育
5	保育所保育の特性　・通年保育・同年齢保育と異年齢保育、年度途中入所
6	保育所保育の特性　・クラス運営・保育所と家庭の連携と協力
7	保育所の今日的課題　・保育所の機能拡大：障害児保育・延長保育
8	保育所の今日的課題　・一時保育・休日保育・病児保育・学童保育・地域に開かれた保育
9	保育所の今日的課題　・幼保一体化、認定子ども園
10	保育実習の意義と目的　・実習とは・実習で学ぶこと、保育実習準備
11	0
12	0
13	0
14	0
15	0

[使用テキスト・参考文献]	[単位認定の方法及び基準]
知りたいときにすぐわかる幼稚園・保育所・児童福祉施設実習ガイド	・授業内小テスト、出席、授業態度　・実習日誌評価、実習園からの評価
	[試験やレポートの評価基準など]
	総合評価で６０点以上を合格とする。

授業概要

(科目名)	授業の種類	授業担当者
保育実習Ⅰ(施設)	実習	関根 嘉美

授業の回数	(単位数) ※		配当学年	必修・選択	実務経験
10日間	2	単位	第2学年	選択	○

[授業の目的・ねらい]
・実践を通じて，保育の技術，能力を向上させる。
・自分なりの保育観や子ども観を深め確立する。

[授業全体の内容の概要]
「保育実習Ⅰ」は，保育士資格を取得するために児童福祉施設（保育所以外）で行う実習である。乳児院・児童養護施設・母子生活支援施設などの養護施設や障害児入所施設・障害者支援施設などの障害者施設で実習を行う。それぞれ10日間の実習で，次の内容を体験的に学ぶ。①施設における1日の流れ　②子どもや障害者への理解を深める　③施設保育士の業務内容や職業倫理について学ぶ　④施設の技術や記録方法について実践的に学ぶ　⑤保育士を志すものとして自覚を高める

[授業修了時の達成課題（到達目標）]
施設現場で保育を経験することにより，これまで学習してきた理論や技術が，保育の実践と具体的にどのように繋がるか理解することができる。

コマ数	内　　容
1	保育実習Ⅰの「施設実習」では，以下の観点から施設における保育がどのようになされているかを理解する
2	施設の内容，機能について理解する。（1日の流れ，子どもや障害者の活動など）
3	施設保育士の職務内容および役割，またほかの職員とのチームワークなどの理解。
4	子どもや障害者を取り巻く社会や家族の問題について理解する。
5	日誌の書き方を学ぶ。担当保育者の指導や助言に従い，積極的に保育実習に参加すること。
6	0
7	0
8	0
9	0
10	0
11	0
12	0
13	0
14	0
15	0

[使用テキスト・参考文献]	[単位認定の方法及び基準]
石橋裕子他編『新訂　知りたいときにすぐわかる幼稚園・保育所・児童福祉施設等　実習ガイド　第2版』同文書院　2018年	①実習日誌・事後レポートなどの提出物50％ ②実習施設の評価30％ ③勤務状況20％
	[試験やレポートの評価基準など]
	総合評価で60点以上を合格とする。

授業概要

(科目名)	授業の種類	授業担当者
教育実習事前事後指導	講義	黒田　朱里

授業の回数	(単位数) ※		配当学年	必修・選択	実務経験
10コマ	1	単位	第2学年	選択	○

[授業の目的・ねらい]
教育実習は、習得した教科全体の知識、技能を基礎とし、これらを総合的に実践する応用能力を養うため、児童に対する理解を通じて保育の理論と実践の関係について習熟させる。さらに、認定こども園の設置が推進されていることを踏まえ、総合性を大切に、保育に生かせる力を育てる。

[授業全体の内容の概要]
幼稚園教育の目的である、幼児が興味を示すような環境を構成して、自発活動を引き出し、発達を援助する保育の理解を深める。

[授業修了時の達成課題（到達目標）]
幼稚園実習を行うために、自分自身が考え、努力し、やり遂げ、さらに研鑽を重ねていかれるような手立てを身に付ける。

回数	内　　容
1	教育実習の進め方・幼稚園の保育内容
2	保育の特質　幼児教育の特質（幼稚園教育要領より）
3	幼稚園教育の基本
4	幼稚園における領域の編成　5領域
5	幼稚園教育要領による「ねらい及び内容」
6	幼稚園「教育課程」カリキュラム
7	指導計画の作成。指導案とは、指導案の構想手順、実習日誌の書き方
8	幼稚園実習の事前準備　・パネルシアター・エプロンシアター等製作
9	幼稚園実習の事前準備　・指導案を書いてみる
10	製作した作品を基に、指導案を作成する
11	0
12	0
13	0
14	0
15	0

[使用テキスト・参考文献]	[単位認定の方法及び基準]
1.幼稚園事前実習指導　2.0歳から5歳児の発達にあった、あそびパーフェクト100集	授業内小テスト。授業への出席・態度、実習日誌評価、実習園からの評価
	(試験やレポートの評価基準など)
	総合評価で60点以上を合格とする。

授業概要

(科目名)	授業の種類	授業担当者
教育実習I	実習	黒田　珠里

授業の回数	(単位数) ※		配当学年	必修・選択	実務経験
10日間	2	単位	第2学年	選択	○

[授業の目的・ねらい]
・幼稚園での1日の教育活動を振り返り、観察記録を作成することができる。
・部分実習または、全日実習の指導計画を立案することができる。

[授業全体の内容の概要]
専門教育科目で獲得した幼児教育に関する知識、技術を活用しながら、実践的指導力を体験的にまた総合的に高めていくことを目標とする。この目標を達成するために第1回（2週間）の実習では、観察・参加実習、部分実習を、さらに、第2回（2週間）の実習では、指導実習を主とする実習を行うこととする。

[授業修了時の達成課題（到達目標）]
・幼稚園における教育内容や幼稚園の機能について、体験を通して理解する。
・幼稚園教諭の職務および役割について、体験を通して理解する。

回数	内　　容
1	以下のような観察視点から幼稚園においてどのような活動が、どのような方法で行われているかを把握する
2	幼稚園における一日の生活・活動の流れと生活・活動内容の概要。
3	遊び・生活場面での園児の行動。
4	園児の行動に対する幼稚園教諭の対応。
5	参加実習では、指導教諭の指導と助言を受けながら、教育活動や園務に積極的に従事する。
6	0
7	0
8	0
9	0
10	0
11	0
12	0
13	0
14	0
15	0

[使用テキスト・参考文献]	[単位認定の方法及び基準]
教育実習事前指導	1．実習日誌の記述内容（50％） 2．指導計画の記述内容（30％） 3．実習園による評価（20％） （試験やレポートの評価基準など） 総合評価で60点以上を合格とする。

授業概要

(科目名)	授業の種類	授業担当者
教育実習2	実習	黒田　栄里

授業の回数	(単位数) ※		配当学年	必修・選択	実務経験
10日間	2	単位	第2学年	選択	○

[授業の目的・ねらい]
幼稚園教諭の職務および役割について体験を通して理解する。全日実習の指導計画作成、及び指導ができるようになる。

[授業全体の内容の概要]
実習で使用する手遊び、ゲームなどのレパートリーを増やしておく。実習後に就職に向けて課題が明確になるよう事後指導を行う。配属クラスに合わせた指導計画が作成できるように指導する。

[授業修了時の達成課題(到達目標)]
1回目の実習を基礎として、専門教育科目で学習したあらゆる知識・技能を統合しながら学習内容を獲得していく。

コマ数	内　　容
1	1回目の実習を基礎として、専門教育科目で学習したあらゆる知識・技能を統合しながら、以下のような学
2	部分実習、全日実習の指導計画の作成および指導。
3	幼稚園教諭としての保育技能の習得および態度の養成。②幼稚園と家庭との連携の内容と方法の理解。
4	0
5	0
6	0
7	0
8	0
9	0
10	0
11	0
12	0
13	0
14	0
15	0

[使用テキスト・参考文献]	[単位認定の方法及び基準]
教育実習事前指導	1．実習日誌の記述内容（50％） 2．指導計画の記述内容（30％） 3．実習園による評価（20％） (試験やレポートの評価基準など) 総合評価で60点以上を合格とする。

授業概要

(科目名)	授業の種類	授業担当者
相談援助の理論と方法	演習	高橋 愛

授業の回数	(単位数) ※		配当学年	必修・選択	実務経験
15コマ	1	単位	第2学年	選択必修1	○

[授業の目的・ねらい]
授業前半は、相談援助におけるケース発見から支援計画作成までのプロセスについて学んだが、後半は、引き続き、モニタリングから終結・評価に至る一連の過程を学び、以て、ケース発見から終結・評価までの相談援助のプロセスの全体像を理解する。更に、これらのプロセスで用いられるアウトリーチ等の支援技法をより具体的に学び、理解を深めていく。

[授業全体の内容の概要]
障害者の事例を取り上げ、グループ討議を交えながら、相談援助の各プロセスにおいて、ソーシャルワーカーが課題にすべき重点や留意点、基本的な技法について学び合う。基本的な支援技法として、アウトリーチ、契約、アセスメント、モニタリング、介入、効果測定、記録法等に焦点を当て、理論と方法を学ぶ。

[授業修了時の達成課題（到達目標）]
ケース発見からケース終結までの相談援助のプロセスについて理解し、相談実習の場等で、対象者理解・支援計画作成に資する能力が育っている。相談援助の専門職としての意識が身生え、育っている。

回数	内　　容
1	相談援助のプロセスとモニタリング
2	アウトリーチとモニタリング－方法と内容、効果測定
3	アウトリーチの方法と留意点
4	再アセスメントと情報収集
5	再アセスメントとニーズ把握の方法
6	介入の技術－どう介入するか？
7	支援計画の作成とプランの実施
8	支援計画（ケアプラン）の発表（2グループ）
9	ケース終結とアフターケア－
10	効果測定と評価（利用者満足度調査、リスクマネジメント、第３者評価等）
11	面接技術の理論と方法－傾聴技法
12	面接技術の理論と方法―相談援助の面接
13	契約の技術　・交渉の技術
14	記録の技術－相談実習に向けて
15	まとめと定期試験・解説

[使用テキスト・参考文献]	[単位認定の方法及び基準]
ソーシャルワークの理論と方法Ⅱ	試験80点以上、提出物・出席状況・授業態度等総合評価 （試験やレポートの評価基準など） 総合評価で６０点以上を合格とする。

授業概要

（科目名）	授業の種類	授業担当者
相談援助の理論と方法	演習	高橋　毅

授業の回数	（単位数）※		配当学年	必修・選択	実務経験
15コマ	1	単位	第2学年	選択必修1	○

[授業の目的・ねらい]
本講義では、前期で学んだ相談援助におけるケース発見から支援計画作成までのプロセスに続き、モニタリングから終結・評価に至る一連の過程を学び、以て、相談援助のプロセスの全体像を理解する。更に、これらのプロセスで用いられるアウトリーチ等の支援技法をより具体的に学び、理解を深めていく。

[授業全体の内容の概要]
支援計画作成後のサービス提供や支援を受けている事例を取り上げ、適切な支援計画であったか、改善点はないか等、見直しを行う技法について、グループ討議を交えながら検討する。主に、モニタリングのプロセス、アウトリーチ、契約、介入、再アセスメント、評価・測定、記録等の支援技法に焦点を当て、その理論と方法を学ぶ。

[授業修了時の達成課題（到達目標）]
ケース発見からケース終結までの相談援助のプロセスについて理解し、相談実習の場等で、対象者理解・支援計画作成に資する能力が育っている。相談援助の専門職としての意識が芽生え、育っている。

回数	内　　容
1	相談援助のプロセスとモニタリングの意義
2	モニタリングの方法とプロセス
3	アウトリーチの技術－意義と目的，方法と留意点
4	相談援助における契約について
5	相談援助における介入の技法
6	相談援助における記録について
7	再アセスメントの技術－アセスメントツールと情報収集・情報の統合化
8	再アセスメントとニーズ把握の方法・支援目標の再設定
9	支援の強化体制の構築・サービス開発について，及び交渉の技術
10	ケース終結とアフターケア
11	ニーズの集約とコミュニティワーク
12	予防的対応とネットワークづくり
13	効果測定と評価の方法について
14	効果測定と評価の実際（利用者満足度調査，リスクマネジメント，第三者評価等）
15	まとめ・定期試験・解説

[使用テキスト・参考文献]	[単位認定の方法及び基準]
ソーシャルワークの理論と方法Ⅱ	テスト・レポート・出席状況・授業態度等総合評価
	（試験やレポートの評価基準など）
	小テスト平均点60点以上、定期テスト60点以上、レポート類はA B C 評価で以上

授業概要

(科目名)	授業の種類	授業担当者
高齢者に対する支援と介護保険制度	講義	大西　史香

授業の回数	(単位数) ※		配当学年	必修・選択	実務経験
15コマ	2	単位	第2学年	選択必修1	○

(授業の目的・ねらい)
1．社会福祉士に必要な「高齢者に対する支援」の知識・技術を修得していく。2．同上の知識が介護の実践場面に於いてどう活用され，どのような課題を抱えているか理解していく。3．上記の過程を通して，社会福祉士に求められる豊かな人格形成に努める。

(授業全体の内容の概要)
1．　高齢者の社会的理解及び身体的・精神的理解を深める。2．　高齢者保健福祉制度の発展及び老人福祉法，高齢者支援関係法規・制度について理解する。3．　民間シルバーサービスについて理解する。

(授業修了時の達成課題（到達目標）)
1．社会福祉士に必要な「高齢者に対する支援」の知識・技術を修得している。2．上記の知識が介護の実践場面に於いてどう活用され，どのような課題を抱えているか理解している。3．以上の過程を通して，社会福祉士に求められる豊かな人格の基盤が培われている。

コマ数	内　　容
1	我が国の高齢者問題①；我が国の高齢化の状況
2	我が国の高齢者問題②；家族の変容と介護
3	我が国の高齢者問題③；高齢者虐待
4	我が国の高齢者問題④；高齢者の経済状況
5	高齢者福祉制度の発展と現在の枠組み①；老人福祉の発展
6	高齢者福祉制度の発展と現在の枠組み②；高齢社会対策基本法・高齢社会対策大綱
7	高齢者福祉制度の発展と現在の枠組み③；高齢者の保健福祉に関する施策の進展
8	介護の概念①；専門的介護が必要になった背景
9	介護の概念②；介護の原則
10	介護の概念③；介護過程
11	高齢者介護の実践①；認知症ケア
12	高齢者介護の実践②；右片麻痺高齢者の介護
13	高齢者介護の実践③；終末期介護
14	高齢者介護の実践④；住環境の整備
15	まとめ；授業全体の総括

(使用テキスト・参考文献)	(単位認定の方法及び基準)
1．高齢者に対する支援と介護保険制度 2．「社会福祉小六法」(ミネルヴァ書房)	1．小テスト；70％　　2．授業態度・意欲；30％ (試験やレポートの評価基準など) 1．小テスト；5点×14回＝70点　2．授業態度；2点×15回＝30点　【合計】 100点満点；80点以上A・70点以上B・60点以上C・60点未満D(不合格)

授業概要

(科目名)	授業の種類	授業担当者
高齢者に対する支援と介護保険制度	講義	大西　史音

授業の回数	(単位数) ※		配当学年	必修・選択	実務経験
15コマ	2	単位	第3学年	選択必修1	○

[授業の目的・ねらい]
1. 社会福祉士に必要な「高齢者に対する支援」の知識・技術を修得していく。2. 同上の知識が介護の実践場面に於いてどう活用され，どのような課題を抱えているか理解していく。3. 上記の過程を通して，社会福祉士に求められる豊かな人格形成に努める。

[授業全体の内容の概要]
1. 介護保険制度の動向について理解する。2. 介護保険制度の枠組みと仕組み及びサービス利用の過程について理解する。3. 介護保険サービスの内容，サービス事業者・施設及び保険財政について理解する。

[授業修了時の達成課題（到達目標）]
1. 社会福祉士に必要な「高齢者に対する支援」の知識・技術を修得している。2. 上記の知識が介護の実践場面に於いてどう活用され，どのような課題を抱えているか理解している。3. 以上の過程を通して，社会福祉士に求められる豊かな人格の基盤が培われている。

回数	内　　容
1	介護保険法の創設と改正の経緯
2	介護保険法の仕組み①；保険者・被保険者・保険料・財源
3	介護保険法の仕組み②；介護報酬（介護給付）
4	介護保険法の仕組み③；市町村・都道府県・国・団体の役割
5	介護保険法の仕組み④；要介護認定
6	介護保険法によるサービス①サービスの全体像
7	介護保険法によるサービス②介護給付（居宅サービス）
8	介護保険法によるサービス③；居宅介護支援
9	介護保険法によるサービス④；施設サービス
10	介護保険法によるサービス⑤；地域密着型サービス
11	介護保険法によるサービス⑥；福祉用具・住宅改修
12	介護保険法によるサービス⑦；予防給付・市町村特別給付
13	介護保険法によるサービス⑧；地域支援事業
14	介護保険法によるサービス⑨；地域包括ケアシステム
15	まとめ；授業全体の総括

[使用テキスト・参考文献]	[単位認定の方法及び基準]
1. 社会福祉士シリーズ「高齢者に対する支援と介護保険制度」（弘文堂）2.「社会福祉小六法」（ミネルヴァ書房）	1. 小テスト：70%　　2. 授業態度・意欲：30%
	[試験やレポートの評価基準など]
	1. 小テスト：5点×14回＝70点　2. 授業態度：2点×15回＝30点　【合計】（100点満点）80点以上A・70点以上B・60点以上C・60点未満D（不合格）

授業概要

〔科目名〕	授業の種類	授業担当者
障害者に対する支援と障害者自立支援制度	講義	福嶋　毅

授業の回数	〔単位数〕※		配当学年	必修・選択	実務経験
15コマ	1	単位	第2学年	選択必修1	□

〔授業の目的・ねらい〕
介護実践に必要な障害者福祉の基礎的な知識、理念を習得する学習とする。障害者の一人ひとりの生活状況を的確に把握した自立支援に資する障害者自立支援制度について習得する学習とする。

〔授業全体の内容の概要〕
障害の概念、障害者福祉の基本理念、障害者の生活実態、障害者支援制度創設の背景及び目的、内容とその仕組み、支援サービス提供の実際、障害者にかかる関連法規を学習する。　障害者を支える家族問題、障害者福祉分野の他職種との連携を学習する。

〔授業修了時の達成課題（到達目標）〕
障害者の人権擁護の視点・職業倫理を身につけ、利用者本位のサービスを総合的計画的に提供できる能力を身につける。

回数	内　　容
1	障害者福祉の基本理念（ノーマライゼーション、障害者と自立生活　など）
2	障害者福祉制度の発展（戦後初期から社会福祉基礎構造改革障害者施策）
3	障害の概念（国際障害分類と国際生活機能分類、障害モデル、障害認定　など）
4	障害者を取り巻く社会環境、生活実態とニーズ
5	障害者の法（障害者基本法、身体障害者福祉法・知的障害者福祉法・精神保健・精神障害福祉法・発達障害
6	障害者の所得保障・雇用促進制度、バリアフリー法、障害者虐待の防止及び障害者の養護支援者法　など）
7	障害者総合支援法の目的、都道府県・市町村による障害者福祉計画
8	障害者総合支援法のサービスの種類と内容、移行支援、障害支援区分
9	利用手続き（モニタリング）利用者負担の仕組みと軽減措置
10	障害児を対象としたサービス、相談支援
11	障害者の保健医療サービス
12	国・都道府県・市町村・指定サービス事業者などの機能と役割（連携／ネットワーキング）
13	相談支援事業・個別支援計画による支援（専門職の役割）
14	障害者の権利擁護（制度と活用、オンブズマンなど）
15	まとめと定期テスト

〔使用テキスト・参考文献〕	〔単位認定の方法及び基準〕
①『障害者福祉論（新・初めて学ぶ社会福祉）』杉本敏夫他著　ミネルヴァ書房 ②ワイド版 社会福祉小六法　資料付（ミネルヴァ書房）	①授業毎のレポート　②定期テスト　③出欠席など受講状況を加味 （試験やレポートの評価基準など） ①レポート　30点　②定期テスト　30点 ③　①②をもとに出欠席など受講状況を加味し　総点以上を合

授業概要

〔科目名〕	授業の種類	授業担当者
地域福祉の理論と方法	講義	大西　史浩

授業の回数	〔単位数〕※		配当学年	必修・選択	実務経験
15コマ	2	単位	第2学年	選択必修1	○

〔授業の目的・ねらい〕
厚生労働省のシラバスに準拠し、資格取得に必要な知識及び技術を学ぶ。具体的な事例をとおして地域づくり・まちづくりの重要性を認識する。

〔授業全体の内容の概要〕
地域福祉の理念と内容、主体形成、地域における組織・団体・専門職との連携などについての基本的な事項を学ぶことにより、地域福祉とは何かについての理解を深める。具体的には、地域福祉計画・地域福祉活動計画を通して地域づくりへの参加と重要性について認識させる。

〔授業修了時の達成課題（到達目標）〕
現代社会における地域福祉の重要性を理解し、その実践についての方法論を具体的な事例をとおして学ぶことにより福祉専門職としての心構えを養う。

回数	内　　容
1	オリエンテーション　新しい社会福祉システム①
2	新しい社会福祉システム②
3	地域福祉の基本的考え方①
4	地域福祉の基本的考え方②
5	地域福祉の基本的考え方③
6	地域福祉の主体と福祉教育①
7	地域福祉の主体と福祉教育②
8	行政組織と民間組織の役割と実際①
9	行政組織と民間組織の役割と実際②
10	コミュニティソーシャルワークと専門職の役割①
11	コミュニティソーシャルワークと専門職の役割②
12	コミュニティソーシャルワークと専門職の役割③
13	住民の参加と方法①
14	住民の参加と方法②
15	前期試験

〔使用テキスト・参考文献〕	〔単位認定の方法及び基準〕
地域福祉論	出席点・小テスト・定期試験で総合的に評価する （試験やレポートの評価基準など） 論述形式の場合は、基本的な文章表現の作法が守られていること、文章全体の展開が論理的であること、自分が感じ・考えた事が他者に伝わるように具体的に言語化されていることが基準として挙げられる。

授業概要

〔科目名〕	授業の種類	授業担当者
地域福祉の理論と方法	講義	大西　史浩

授業の回数	〔単位数〕※		配当学年	必修・選択	実務経験
15コマ	2	単位	第2学年	選択必修]	○

〔授業の目的・ねらい〕
厚生労働省のシラバスに準拠し、資格取得に必要な知識及び技術を学ぶ。具体的な事例をとおして地域づくり・まちづくりの重要性を認識する。

〔授業全体の内容の概要〕
地域福祉の理念と内容，主体形成，地域における組織・団体・専門職との連携などについての基本的な事項を学ぶことにより，地域福祉とは何かについての理解を深める。具体的には，地域福祉計画・地域福祉活動計画を通して地域づくりへの参加と重要性について認識させる。

〔授業修了時の達成課題（到達目標）〕
現代社会における地域福祉の重要性を理解し、その実践についての方法論を具体的な事例をとおして学ぶことにより福祉専門職としての心構えを養う。

コマ数	内　　容
1	オリエンテーション　ソーシャルサポートネットワーク①
2	ソーシャルサポートネットワーク②
3	地域における社会資源の活用・調整・開発①
4	地域における社会資源の活用・調整・開発②
5	地域における福祉ニーズの把握方法と実際①
6	地域における福祉ニーズの把握方法と実際②
7	地域トータルケアシステムの構築と実際①
8	地域トータルケアシステムの構築と実際②
9	地域における福祉サービスの評価方法と実際①
10	地域における福祉サービスの評価方法と実際②
11	災害支援と地域福祉①
12	災害支援と地域福祉②
13	日本の地域福祉に影響を与えた海外の考え方①
14	日本の地域福祉に影響を与えた海外の考え方②
15	後期試験

〔使用テキスト・参考文献〕	〔単位認定の方法及び基準〕
地域福祉論	出席点・小テスト、定期試験で総合的に評価する
	〔試験やレポートの評価基準など〕
	論述形式の場合は，基本的な文章表現の作法が守られていること，文章全体の展開が論理的であること，自分が感じ・考えた事が他者に伝わるように具体的に言語化されていることが基準として挙げられる。

授業概要

(科目名)	授業の種別	授業担当者
相談援助実習指導	講義	園根　麻美

授業の回数	(単位数) ※		配当学年	必修・選択	実務経験
15コマ	2	単位	第2学年	選択必修1	○

[授業の目的・ねらい]
第2段階をふり返りながら，実習目標の到達点を確認するとともに自己の課題を認識する。また，実習体験の効果的な定着を図る。

[授業全体の内容の概要]
実習課題についてふり返りワークシートを作成し、グループによる体験の共有化を行う。また、施設からの評価表と実習記録をもとに事後指導を行い、目標達成度・課題の整理，スーパービジョンによるふり返りを行う。さらに課題を明確にし，総括レポートとしてまとめる。

[授業修了時の達成課題（到達目標）]
自らの実習をふり返り、自己評価、施設からの評価，グループ討議，スーパービジョンにより，現場体験において培った知識，援助技術の内容の理解を深める。

コマ数	内　　容
1	実習のふり返りⅠ（ふり返りの意義、ふり返りワークシートの作成）
2	実習のふり返りⅡ（グループでの体験報告・話し合い）
3	実習のふり返りⅢ（実習事後指導，目標達成度・課題の整理）
4	実習のふり返りⅣ（実習事後指導，目標達成度・課題の整理）
5	実習のふり返りⅤ（実習事後指導）　地域と施設の関係
6	福祉専門職としてのあり方と自己覚知
7	実習総括レポートの作成
8	実習総括レポートの作成
9	実習総括レポートの作成
10	実習総括レポートの作成
11	実習総括レポートの作成
12	実習総括レポートの作成
13	実習総括レポートの作成
14	実習総括レポートの作成
15	実習総括レポートの作成

[使用テキスト・参考文献]	[単位認定の方法及び基準]
『社会福祉小六法』	各種レポートの提出状況　グループ討議・授業への参加状況　期末テスト
	(試験やレポートの評価基準など)
	総合評価で６０点以上を合格とする。

授業概要

(科目名)	授業の種別	授業担当者
社会保障	講義	府川　充博

授業の回数	(単位数) ※		配当学年	必修・選択	実務経験
15コマ	2	単位	第2学年	選択必修1	○

[授業の目的・ねらい]
社会保障の仕組み、種類について、基本的なことを理解する。私たちの生活にとって何故社会保障が必要なのか、どのように機能しているのか、ないとどうなるのか、現行の制度にはどのような問題点があるのかを考える。細かいことは来年とし、2年次は大枠を理解する。

[授業全体の内容の概要]
基本的にテキストに沿って進める。予め読んでいることを前提に授業を進めるので、予習をしっかりすること。社会保障は範囲が広く、内容も複雑なので、復習も必須。

[授業修了時の達成課題（到達目標）]
日本の社会保障がどのようなものなのか、何が問題なのかを理解する。

回数	内　　容
1	オリエンテーション：社会保障とは何か
2	現代社会と社会保障 (1) 国民の生活と社会保障
3	現代社会と社会保障 (2) 社会保障の理念
4	社会保障の目的と機能
5	日本における社会保障の成立
6	社会保障の構造 (1) 社会保障制度の体系
7	社会保障の構造 (2) 社会保険と社会扶助
8	年金保険制度：国民年金
9	年金保険制度：厚生年金
10	医療保険制度：国民健康保険と健康保険
11	介護保険制度概要
12	障害者福祉制度と児童福祉
13	総括と試験対策
14	総括と試験対策
15	最終試験

[使用テキスト・参考文献]	[単位認定の方法及び基準]
なし（講義プリントを用意します）	リアクションペーパー、最終試験の総合評価
	(試験やレポートの評価基準など)
	リアクションペーパー50%、最終試験50%

授業概要

(科目名)	授業の種類	授業担当者
相談援助演習	演習	陽假 麻美

授業の回数	(単位数) 単		配当学年	必修・選択	実務経験
15コマ	1	単位	第2学年	選択必修I	○

[授業の目的・ねらい]
厚生労働省のシラバスに準拠し、資格取得に必要な知識及び技術を学ぶ。具体的な事例をとおして地域づくり・まちづくりの重要性を認識する。

[授業全体の内容の概要]
地域福祉の理念と内容、主体形成、地域における組織・団体・専門職との連携などについての基本的な事項を学ぶことにより、地域福祉とは何かについての理解を深める。具体的には、地域福祉計画・地域福祉活動計画を通して地域づくりへの参加と重要性について認識させる。

[授業修了時の達成課題(到達目標)]
現代社会における地域福祉の重要性を理解し、その実践についての方法論を具体的な事例をとおして学ぶことにより福祉専門職としての心構えを養う。

回数	内容
1	オリエンテーション 新しい社会福祉システム①
2	新しい社会福祉システム②
3	地域福祉の基本的考え方①
4	地域福祉の基本的考え方②
5	地域福祉の基本的考え方③
6	地域福祉の主体と福祉教育①
7	地域福祉の主体と福祉教育②
8	行政組織と民間組織の役割と実際①
9	行政組織と民間組織の役割と実際②
10	コミュニティソーシャルワークと専門職の役割①
11	コミュニティソーシャルワークと専門職の役割②
12	コミュニティソーシャルワークと専門職の役割③
13	住民の参加と方法①
14	住民の参加と方法②
15	前期試験

[使用テキスト・参考文献]	[単位認定の方法及び基準]
地域福祉論	出席点・小テスト、定期試験で総合的に評価する (試験やレポートの評価基準など) 論述形式の場合は、基本的な文章表現の作法が守られていること、文章全体の展開が論理的であること、自分が感じ・考えた事が他者に伝わるように具体的に言語化されていることが基準として挙げられる。

授業概要

〔科目名〕	授業の種類	授業担当者
相談援助演習	演習	関根　麻美

授業の回数	〔単位数〕※		配当学年	必修・選択	実務経験
15コマ	1	単位	第2学年	選択必修1	○

[授業の目的・ねらい]
厚生労働省のシラバスに準拠し、資格取得に必要な知識及び技術を学ぶ。具体的な事例をとおして地域づくり・まちづくりの重要性を認識する。

[授業全体の内容の概要]
地域福祉の理念と内容、主体形成、地域における組織・団体・専門職との連携などについての基本的な事項を学ぶことにより、地域福祉とは何かについての理解を深める。具体的には、地域福祉計画・地域福祉活動計画を通して地域づくりへの参加と重要性について認識させる。

[授業修了時の達成課題（到達目標）]
現代社会における地域福祉の重要性を理解し、その実践についての方法論を具体的な事例をとおして学ぶことにより福祉専門職としての心構えを養う。

コマ数	内　　容
1	オリエンテーション　ソーシャルサポートネットワーク①
2	ソーシャルサポートネットワーク②
3	地域における社会資源の活用・調整・開発①
4	地域における社会資源の活用・調整・開発②
5	地域における福祉ニーズの把握方法と実際①
6	地域における福祉ニーズの把握方法と実際②
7	地域トータルケアシステムの構築と実際①
8	地域トータルケアシステムの構築と実際②
9	地域における福祉サービスの評価方法と実際①
10	地域における福祉サービスの評価方法と実際②
11	災害支援と地域福祉①
12	災害支援と地域福祉②
13	日本の地域福祉に影響を与えた海外の考え方①
14	日本の地域福祉に影響を与えた海外の考え方②
15	後期試験

〔使用テキスト・参考文献〕	〔単位認定の方法及び基準〕
地域福祉論	出席点・小テスト，定期試験で総合的に評価する （試験やレポートの評価基準など） 論述形式の場合は，基本的な文章表現の作法が守られていること，文章全体の展開が論理的であること，自分が感じ・考えた事が他者に伝わるように具体的に言語化されていることが基準として挙げられる。

授業概要

(科目名)	授業の種類	授業担当者
障害者スポーツ指導実習	実習	定廻　なつみ

授業の回数	(単位数) ※		配当学年	必修・選択	実務経験
30コマ	2	単位	第2学年	選択必修1	○

[授業の目的・ねらい]
専門学校の正規授業に知的障害者のアクアプログラムを設置し、実践の試行錯誤から展開方法および指導方法論の可能性をみつけだす。

[授業全体の内容の概要]
90分2コマの実習科目である。対象者は知的障害を有する成人。スタッフ体制は原則としてマンツーマン担当。学生は事前ミーティング後、利用者を玄関前に迎え、トイレ・更衣・シャワー介助後プールサイドへ。入水後は教育リードに従い動作指示。

[授業修了時の達成課題（到達目標）]
対象者とのコミュニケーション、プール内でのメイン（教員）指導が行えるようにする。内容のコミュニケーションパートの企画。

コマ数	内　　容
1	水の特性や実際の流れ
2	対象者とのコミュニケーション
3	対象者の理解　および　危機管理（リスクマネージメント）
4	プログラムの理解
5	ゲームについて
6	ゲームの考案と作成
7	ゲームの進行 1
8	〃　2
9	〃　3
10	〃　4
11	〃　5
12	ウォーミングアップについて
13	ウォーミングアップの作成
14	ウォーミングアップペアで指導 1
15	〃　2

[使用テキスト・参考文献]	[単位認定の方法及び基準]
なし	対象者とのコミュニケーション能力、企画、実践能力、レポート
	(試験やレポートの評価基準など)
	総合評価で６０点以上を合格とする。

授業概要

(科目名)	授業の種類	授業担当者
障害者スポーツ指導実習	実習	定岡　なつみ

授業の回数	(単位数) ※		配当学年	必修・選択	実務経験
30コマ	2	単位	第2学年	選択必修1	○

[授業の目的・ねらい]
専門学校の正規授業に知的障害者のアクアプログラムを設置し、実践の試行錯誤から展開方法および指導方法論の可能性をみつけだす。

[授業全体の内容の概要]
90分2コマの実習科目である。対象者は知的障害を有する成人。スタッフ体制は原則としてマンツーマン担当。学生は事前ミーティング後、利用者を玄関前に迎え、トイレ・更衣・シャワー介助後プールサイドへ。入水後は教育リードに従い動作指示。

[授業修了時の達成課題(到達目標)]
対象者とのコミュニケーション、プール内でのメイン(教員)指導が行えるようにする。内容のコミュニケーションパートの企画。

回数	内　　容
1	ウォーミングアップペアで指導3
2	〃　4
3	〃　5
4	ウォーミングアップ1人指導1
5	〃　2
6	〃　3
7	〃　4
8	〃　5
9	〃　6
10	〃　7
11	〃　8
12	〃　9
13	〃　10
14	〃　11
15	〃　12

[使用テキスト・参考文献]	[単位認定の方法及び基準]
なし	対象者とのコミュニケーション能力、企画、実践能力、レポート
	(試験やレポートの評価基準など)
	総合評価で60点以上を合格とする。

授業概要

(科目名)	授業の種類	授業担当者
子どもの保健Ⅰ	講義	小松田　よし子

授業の回数	(単位数) ※		配当学年	必修・選択	実務経験
15コマ	2	単位	第3学年	必修	○

[授業の目的・ねらい]
子どもの特徴を理解し、正常な発達のために必要を満たし、人権を尊重し、子どもの思いと意欲を大事にした保育ができるようになる。

[授業全体の内容の概要]
成長・発達と共に変化する心身の発育を理解する。視聴覚教材によっても、子どもの健全な育成を理解する。

[授業修了時の達成課題(到達目標)]
心身の変化の著しい時期に携わる保育者としての対応が、子どもの成長・発達に大きな影響を与えることを認識して、子どもに関わっていける保育者になる。

コマ数	内　　容
1	オリエンテーション・序論　講義の概要　「子どもの保健」を学ぶ目的　エキスパートへの道
2	Ⅰ　子どものための保健活動　1 子どもの保健という学問　2 子どもの保健の対象（範囲）
3	Ⅱ　身体発育と保健　1 発育の原則
4	2 乳幼児の身体計測値と評価（計測の方法は「小児保健実習」で行う）
5	Ⅲ　生理機能の発達と保健　1 脳と神経　3 体温
6	3 水分代謝　4 循環
7	5 呼吸、心拍、血圧
8	6 消化吸収
9	7 排泄
10	8 睡眠　9 免疫
11	Ⅳ　運動機能の発達と保健　1 新生児と新生児の運動機能発達
12	2 乳児の運動機能発達　3 幼児の運動機能発達
13	Ⅴ　精神機能の発達と保健　1 言語の発達　2 社会性の発達　3 情緒の発達
14	4 発達の評価　5 発達に影響する要因
15	まとめ　テスト

[使用テキスト・参考文献]	[単位認定の方法及び基準]
よくわかる子どもの保健	履修後の試験、小テスト、出席状況の総合評価 (試験やレポートの評価基準など) 60点以上

授業概要

(科目名)	授業の種別	授業担当者
保育・教職実践演習	講義	黒田 味里

授業の回数	(単位数) 数		配当学年	必修・選択	実務経験
15コマ	2	単位	第3学年	必修	○

[授業の目的・ねらい]
保育者としての責任感・使命感を再認識し、就業に際して求められる社会性や対人関係能力の向上、並びに、子ども理解・クラス運営・保育内容の指導力の向上を目指す。

[授業全体の内容の概要]
グループワークを中心として、自らの学びを実習等の体験と結びつけながら振り返り、保育者として必要な知識や技能、専門職としての倫理観などを再認識する。主に、保育者の役割、職務内容、子どもに対する責任感や倫理、社会性、対人関係の能力、こどもや家庭の理解、教職員間の連携、関係構築をテーマとする。

[授業修了時の達成課題（到達目標）]
保育者として必要な保育に関する専門知識及び技術、幅広く深い教養及び総合的な判断力、専門職としての倫理観などが形成、習得されたか、自らの学びを振り返り確認する。子ども理解、クラス運営並びに保育内容の指導力を身につける。そして自己の課題を明確化し、保育の実践に際して必要となる基礎的な資質や能力の定着を図る。

回数	内　　容
1	＊ポートフォリオの記入・提出＊実習で達した課題と新たな課題の振り返り
2	実習における場面の事例検討①子どもとの関わり
3	実習における場面の事例検討②保育者との関わり
4	実習における場面の事例検討③保育内容
5	＊ポートフォリオの記入・提出＊実習で達した課題と新たな課題の振り返り（5回目授業前に保育所実習第
6	子どもの実践的理解
7	気になる子供と家庭の理解
8	協働的な活動と学びの意義
9	保育内容の検討①幼保小の接続
10	保育内容の検討②行事の立案と指導計画
11	保育内容の検討②行事の立案と指導計画
12	行事の立案と指導計画の評価①＊保育所保育をめぐる状況の変化＊保護者支援＊新しい保育需要
13	行事の立案と指導計画の評価②
14	現場保育者からの学び（保育の展開と応用）
15	現場保育者からの学び（保育者の役割と責務）

[使用テキスト・参考文献]	[単位認定の方法及び基準]
（新保育ライブラリ）保育内容総論（2010初版第2刷）北大路書房	授業内小テスト、授業への出席、態度 （試験やレポートの評価基準など） 総合評価で６０点以上を合格とする。

授業概要

(科目名)	授業の種類	授業担当者
保育・教職実践演習	講義	黒田　珠里

授業の回数	(単位数) ※		配当学年	必修・選択	実務経験
10コマ	1	単位	第3学年	必修	○

[授業の目的・ねらい]
保育者としての責任感・使命感を再認識し、就業に際して求められる社会性や対人関係能力の向上、並びに、子ども理解・クラス運営・保育内容の指導力の向上を目指す。

[授業全体の内容の概要]
前期に引き続きグループワークを中心として、自らの学びを実習等の体験と結び付けながら振り返り、保育者として必要な知識や技能、専門職としての倫理観等を再認識する。後期では主に、「子どもの命を守る」という事をテーマに、保育者の役割、職務内容、子どもに対する責任や倫理、子どもや家庭の理解、教職員間の連携、関係機関との連携について学ぶ。

[授業修了時の達成課題（到達目標）]
保育者として必要な保育に関する専門知識及び技術、幅広く深い教養及び総合的な判断力、専門職としての倫理観などが形成、習得されたか、自らの学びを振り返り確認する。また、子どもの命を守るという観点から、園での安全管理について課題を明確化し、保育の実践に際して必要となる基礎的な資質や能力の定着を図る。

コマ数	内　　容
1	食物アレルギーとアナフィラキシーショックの理解
2	エピペンの使用と保護者・主治医との連携
3	保育園・幼稚園での安全管理・対策
4	避難訓練の目的と実施計画①
5	避難訓練の実践演習・まとめ
6	子どものケガや病気の理解
7	子どものケガや病気の応急手当
8	緊急時の体制と実践① 心肺停止・意識消失時
9	緊急時の体制と実践② 虐待発見時
10	まとめテストと評価
11	0
12	0
13	0
14	0
15	0

[使用テキスト・参考文献]	[単位認定の方法及び基準]
(新保育ライブラリ) 保育内容総論 (2018初版第2刷) 北大路書房	授業内小テスト、授業への出席、態度 [試験やレポートの評価基準など] 総合評価で６０点以上を合格とする。

授業概要

〔科目名〕	授業の種類	授業担当者
子どもの健康と安全	演習	小松田　よし子

授業の回数	〔単位数〕※		配当学年	必修・選択	実務経験
15コマ	1	単位	第3学年	必修	○

〔授業の目的・ねらい〕
子どもの保健の知識（小児を心身の病気から守り健全に育成させるために、健康状態を把握し、発育の評価法や子どもの病気の特徴を修得する）を基礎とした子どもの保健を遂行する技術を修得する。また、個々、集団（保育所、幼稚園、児童福祉施設など）の子どもに対して、保育の場で実践できる応用能力と技術を習熟する。

〔授業全体の内容の概要〕
子どもの健康状態を観察、身体測定法、生理機能の測定法、精神・運動発達機能の評価と記録の方法を学ぶ。また、乳幼児の日常生活上の保育環境と養護の実際、異常時の看護・怪我や事故時の応急処置・心肺蘇生法の演習を行う。

〔授業修了時の達成課題（到達目標）〕
子どもの保健で学んだ健康な子どもの成長・発達を通して、観察し、査定する方法と常に子どもの安全に留意した保育環境と事故防止の知識と技術を習得し、保育の場において実践できる能力を身に着ける。

回数	内　　容
1	オリエンテーション 序論 （1）小児保健
2	第一章　子どもの発育（身体発育の測定評価）（1）胎児の発育経過と発育に影響を及ぼす因子（2）正
3	第1章　子どもの発育（身体発育の測定と評価）（3）身体計測値の評価（成長曲線の理解）→＊事例を
4	第2章　子どもの発達（運動機能・精神機能の発達の測定と評価（2）原始反射について
5	第2章子どもの発達（3）精神機能の発達の測定と評価＊事例を使って一デンバー・遠城寺式
6	第3章子どもの健康状態（生理機能の発達の観察と測定）（1）体温・呼吸・脈拍の正しい測定法と生理機
7	第3章 子どもの健康状態（生理機能の波立の観察と測定）＊演習：体温・呼吸・脈拍測定
8	第4章 日常における養護と保育環境（乳幼児の養護1、2）（1）保育環境と衛生管理（2）乳幼児の扱い方
9	第4章 日常における養護と保育環境（乳幼児の養護1、2）（1）保育環境と衛生管理（2）乳幼児の扱い方
10	第5章 よくかかる病気（子どもの罹りやすい病気）（1）病気についての基礎知識（2）異常症状の把握
11	第5章 よくかかる病気（子どもの罹りやすい病気）（3）体調不良等の症状別対応（4）罹りやすい感染症
12	第6章 よく起こる事故（子どもの事故と事故防止）（1）小児保健統計（2）小児の事故の特徴（3）事故防
13	第7章 いざというときの応急処置（1）心肺蘇生法（2）急病時の応急処置（3）障害児の応急処置＊演習：
14	第9章 子どもの生活習慣（1）生活習慣病の予防（2）思春期のリプロダクティブ・ヘルス
15	まとめ・テスト

〔使用テキスト・参考文献〕	〔単位認定の方法及び基準〕
よくわかる子どもの保健	履修後の試験、小テスト、出席状況の総合評価
	（試験やレポートの評価基準など）
	総合評価で６０点以上を合格とする。

授業概要

(科目名)	授業の種類	授業担当者
レクリエーション実技	実技	新戸　由美

授業の回数	(単位数) ※		配当学年	必修・選択	実務経験
30コマ	2	単位	第3学年	必修	□

[授業の目的・ねらい]
アイスブレーキングの応用

[授業全体の内容の概要]
就職後に使用できそうなゲームの体験、実技テスト、テキスト作り。

[授業修了時の達成課題（到達目標）]
様々なスポーツ(レク)、ゲームの基本的なルールを理解し、ゲームを通じて楽しさを味わえるようになる。

回数	内　　容
1	自己紹介をゲームを通して体験してもらう。(注意点を含む)
2	アイスブレーキングの導入段階ゲーム体験
3	アイスブレーキングの交流ゲーム体験
4	アイスブレーキングの自己表現ゲーム体験
5	レクリエーションスポーツ（インディアカ）　生涯スポーツ（1）
6	レクリエーションスポーツ（ドッジビー）生涯スポーツ（2）
7	レクリエーションスポーツ（ペタンク）　生涯スポーツ（3）
8	クラフト(新聞紙を使用)
9	福祉レクリエーションを意識した活動 (ペットボトル1.5l)
10	福祉レクリエーションを意識した活動 (実技テストのグループ作り)
11	実技テスト予行練習
12	実技テストA班
13	実技テストB班
14	クラフト　#自分なりのテキスト提出
15	まとめ

[使用テキスト・参考文献]	[単位認定の方法及び基準]
レクリエーション活動援助法	実技テスト70点満点　テキスト30点満点　授業態度が悪ければ減点
	(試験やレポートの評価基準など)
	実技テスト・テキスト作り、授業態度。

授業概要

〔科目名〕	授業の種類	授業担当者
キリスト教倫理	講義	森　直樹

授業の回数	〔単位数〕※		配当学年	必修・選択	実務経験
15コマ	2	単位	第3学年	必修	○

〔授業の目的・ねらい〕
『人間である』ことから『人間になる』ことへ。これが、この授業の最大のテーマです。そして、それを生徒さんと一緒に考えながら、広大な聖書の中から汲み取ることができれば幸いです。キリスト教的世界観を学ぶことによって、一人一人が、本当の自分に出会う、自分探しの旅を始めていくことができるようにと願います。

〔授業全体の内容の概要〕
旧約聖書を通しては、神によって造られ神のかたちである人間の本来の生と、罪によって歪められた神のかたちである人間の歴史を、新約聖書を通しては、その神のかたちの回復のために2000年前にこの世界に来られたイエス・キリストを学ぶことにおいて、人間本来の神のかたちとしての生き方を学びます。

〔授業修了時の達成課題（到達目標）〕
生徒個人が自分の生き方を考え、社会に出てどのように人とかかわっていくかを、それぞれが模索する中、学びの結論付けをしてくだされればよい。ひとつひとつの課題において、自分なりにそのテーマごとに考えて発言していける力、その考えを文章にしていく力を備えられることができるように。

回数	内　容
1	オリエンテーション
2	宗教とは
3	キリスト教の歴史
4	創造主である神
5	人格としての神
6	神のかたちとしての人間
7	罪により損なわれた人間
8	イエス・キリストの生涯と教え
9	イエス・キリストの十字架と復活
10	キリスト教といのち
11	キリスト教と結婚
12	キリスト教と教育
13	キリスト教と平和
14	まとめ
15	定期試験

〔使用テキスト・参考文献〕	〔単位認定の方法及び基準〕
旧新約聖書（新共同訳）	出欠と授業態度と、小テスト、期末レポート
	〔試験やレポートの評価基準など〕
	総合評価で６０点以上を合格とする。

授業概要

〔科目名〕	授業の種類	授業担当者
キリスト教倫理	講義	森　直樹

授業の回数	〔単位数〕※		配当学年	必修・選択	実務経験
15コマ	2	単位	第3学年	必修	○

〔授業の目的・ねらい〕
『人間である』ことから『人間になる』ことへ。これが、この授業の最大のテーマです。そして、それを生徒さんと一緒に考えながら、広大な聖書の中から汲み取ることができれば幸いです。キリスト教的世界観を学ぶことによって、一人一人が、本当の自分に出会う。自分探しの旅を始めていくことができるようにと願います。

〔授業全体の内容の概要〕
旧約聖書を通しては、神によって造られ神のかたちである人間の本来の生と、罪によって歪められた神のかたちである人間の歴史を、新約聖書を通しては、その神のかたちの回復のために2000年前にこの世界に来られたイエス・キリストを学ぶことにおいて、人間本来の神のかたちとしての生き方を学びます。

〔授業修了時の達成課題（到達目標）〕
生徒個人が自分の生き方を考え、社会に出てどのように人とかかわっていくかを、それぞれが模索する中、学びの結論付けをしてくだされればよい。ひとつひとつの課題において、自分なりにそのテーマごとに考えて発言していける力、その考えを文章にしていく力を備えられることができるように。

回数	内　　容
1	ルーツⅠ　楽園と過去の振り返り
2	ルーツⅡ　Identity
3	ルーツⅢ　communication
4	ルーツⅣ　ゆるすこと
5	ルーツⅤ　自己批判と自己非難
6	ルーツⅥ　自己愛と利己愛
7	精神病理Ⅰ　統合性失調症・躁鬱病・人格障害
8	精神病理Ⅱ　依存症・虐待・パニック障害
9	キリスト教的カウンセリングⅠ
10	キリスト教的カウンセリングⅡ
11	死についてⅠ
12	死についてⅡ
13	キリスト教と福祉
14	まとめ
15	定期試験

〔使用テキスト・参考文献〕	〔単位認定の方法及び基準〕
旧新約聖書（新共同訳）	出欠と授業態度と、小テスト、期末レポート （試験やレポートの評価基準など） 総合評価で６０点以上を合格とする。

授業概要

(科目名)	授業の種類	授業担当者
子育て支援	講義	高橋 誠

授業の回数	(単位数) ※		配当学年	必修・選択	実務経験
10コマ	2	単位	第3学年	必修	□

[授業の目的・ねらい]
保護者支援の意義や基本を理解した上で、保護者支援の方法や技術を学ぶことを目的とする。

[授業全体の内容の概要]
保育所等児童福祉施設における保育相談支援の実際について、事例により、現場で役立つ知識を学んでいく。

[授業終了時の達成課題(到達目標)]
1、保育相談支援の意義と原則について理解する。2、保護者支援の基本を理解する。3、保育相談支援の実際について学び、内容・方法を理解する。4、保育所等児童福祉施設における保護者支援の実際について理解する。

コマ数	内　　容
1	子どもと家庭を取り巻く社会状況と子育て支援の必要性
2	子育て支援に関わる法制度と子ども・子育て支援制度の課題
3	子育て支援における保育士の専門性と保育所の特性をいかした支援
4	保護者との相互理解と信頼関係の形成
5	子育て支援における保育士の役割と視点
6	子育て支援における相談技術
7	子育て支援の計画と環境構成・実践・記録・評価・カンファレンス
8	職員間の連携と協働の実施体制
9	保育所における子育て支援
10	地域の子育て家庭に対する支援
11	多様な支援ニーズを抱える子育て家庭の理解
12	0
13	0
14	0
15	0

[使用テキスト・参考文献]	[単位認定の方法及び基準]
『福祉ライブラリ相談援助』	小テスト
	(試験やレポートの評価基準など)
	総合評価で60点以上を合格とする。

授業概要

(科目名)	授業の種類	授業担当者
保育実習Ⅰ(保育)	実習	板崎 雅子

授業の回数	(単位数) ※		配当学年	必修・選択	実務経験
10日間	2	単位	第3学年	選択	○

[授業の目的・ねらい]
・実践を通じて、保育の技術、能力を向上させる。
・自分なりの保育観や子ども観を深め確立する。

[授業全体の内容の概要]
「保育実習」は、保育士資格を取得するために児童福祉施設で行う実習である。10日間の実習で、次の内容を体験的に学ぶ。①保育所における1日の流れ　②子どもへの理解を深める　③保育士の業務内容や職業倫理について学ぶ　④保育所等の技術や記録方法について実践的に学ぶ　⑤保育士を志すものとして自覚を高める

[授業修了時の達成課題(到達目標)]
保育現場で保育を経験することにより、これまで学習してきた理論や技術が、保育の実践と具体的にどのように繋がるか理解することができる。

回数	内　　容
1	保育実習Ⅰの「保育所実習」では、以下の観点から保育所における保育がどのようになされているかを理解
2	保育所の内容、機能について理解する（保育所の1日の流れやプログラムの理解など）。
3	保育所における子どもの理解（年齢（月齢）ごとの子どもの発達とその特徴など）。
4	日誌や指導案の書き方を学ぶ。担当保育者の指導や助言に従い、積極的に保育実習に参加すること。
5	0
6	0
7	0
8	0
9	0
10	0
11	0
12	0
13	0
14	0
15	0

[使用テキスト・参考文献]	[単位認定の方法及び基準]
石橋裕子他編『新訂　知りたいときにすぐわかる幼稚園・保育所・児童福祉施設等　実習ガイド　第2版』同文書院　2018年	①実習日誌・事後レポートなどの提出物50％ ②実習園の評価30％ ③勤務状況20％
	(試験やレポートの評価基準など)
	総合評価で60点以上を合格とする。

授業概要

(科目名)	授業の種類	授業担当者
保育実習Ⅱ	実習	板﨑 淑子

授業の回数	(単位数) ※		配当学年	必修・選択	実務経験
10日間	2	単位	第3学年	選択	○

[授業の目的・おらい]
子育て支援をするために必要な知識・技術とニーズに対する理解力・判断力を養うことができる。

[授業全体の内容の概要]
「保育実習Ⅱ」では、前回の保育所実習を生かし、子どもの年齢や発達に応じた保育展開、状況に応じた保育の実践、さらに子育て支援としての保育所の役割を踏まえた保育実践に努める。
「保育実習Ⅱ」を履修するためには、「保育実習参加資格」の条件を満たさなければならない。また、「保育実習Ⅰ」を終えておかなければならない。

[授業修了時の達成課題(到達目標)]
「保育実習Ⅰ」を通して学んだ技術と理論を基礎として、保育士として必要な資質、能力、技術を向上させる。

回数	内容
1	保育実習Ⅱでは、以下の観点から保育士としての実践力を高めていくよう努める。
2	子どもの年齢や発達に応じた保育や遊びの展開を行う。
3	その場の状況に応じた子どもへの対応と保育について理解する。
4	問題のある子どもや保護者に対する対応について理解する。
5	延長保育や休日保育、育児相談など子育て支援事業の理解。
6	保育の計画、実践、観察、記録及び自己評価等の実践と理解(部分実習、全日実習、責任実習)。
7	0
8	0
9	0
10	0
11	0
12	0
13	0
14	0
15	0

[使用テキスト・参考文献]	[単位認定の方法及び基準]
石橋裕子他編『新訂　知りたいときにすぐわかる幼稚園・保育所・児童福祉施設等　実習ガイド　第2版』同文書院　2018年	①実習日誌レポートなどの提出物50% ②実習園の評価30% ③勤務状況等20% (試験やレポートの評価基準など) 総合評価で60点以上を合格とする。

授業概要

〔科目名〕	授業の種類	授業担当者
保育実習Ⅲ	実習	板崎　祥子

授業の回数	〔単位数〕※		配当学年	必修・選択	実務経験
10日間	2	単位	第3学年	選択	○

〔授業の目的・ねらい〕
家庭と地域の生活実態にふれ、子育てを支援するために必要とされる能力と、子ども家庭福祉ニーズに対する理解力、判断力を養い、福祉の視点を持てるような学習をする。

〔授業全体の内容の概要〕
「保育実習Ⅲ」では、児童福祉施設（保育所以外）、その他の社会福祉施設での養護についての専門的な理解と技術を学び、児童家庭福祉及び社会的養護に対する理解のもとに、保護者支援、家庭支援のための知識、技術、判断力を養う。

〔授業修了時の達成課題（到達目標）〕
保育実習Ⅲは、「保育実習Ⅰ」での実践を通じて学んだ技術と理解を基礎として、保育士として必要な資質、能力、技術を習得すること。

回数	内　　容
1	保育実習Ⅲでは、以下の観点から保育士としての実践力を高めていくよう努める。
2	児童福祉施設やその他の社会福祉施設の社会的役割と施設保育士の役割。
3	児童福祉施設やその他の社会福祉施設における利用時・者と家族支援の理解。
4	用語内容・方法の理解。
5	保育士としての自己課題の明確化。
6	0
7	0
8	0
9	0
10	0
11	0
12	0
13	0
14	0
15	0

〔使用テキスト・参考文献〕	〔単位認定の方法及び基準〕
石橋裕子他編『新訂　知りたいときにすぐわかる幼稚園・保育所・児童福祉施設等　実習ガイド　第2版』同文書院　2018年	①実習日誌レポートなどの提出物50％ ②実習施設の評価30％ ③勤務状況等20％ （試験やレポートの評価基準など） 総合評価で60点以上を合格とする。

授業概要

(科目名)	授業の種別	授業担当者
保育実習事前事後指導（保育）	講義	榎越　淑子

授業の回数	(単位数) ※		配当学年	必修・選択	実務経験
10コマ	1	単位	第3学年	選択	○

[授業の目的・ねらい]
保育実習は、その習得した教科全体の知識・技能を基礎とし、これらを総合的に実践する応用能力を養うため、乳幼児に対する理解を通じて保育の理論と実践の関係について習熟させる。

[授業全体の内容の概要]
保育所保育の役割を理解し、保育の理論と技能を基礎として、実践的な力量を備える。

[授業修了時の達成課題（到達目標）]
保育所実習を行うために、自分自身が考え、努力し、やり遂げ、さらに研鑽を重ねていけるような手立てを身に付ける。

回数	内　　容
1	保育所保育の特性　・クラス運営・保育所と家庭の連携と協力
2	保育所の今日的課題　・保育所の機能拡大：障害児保育・延長保育
3	保育所の今日的課題　・一時保育・休日保育・病児保育・学童保育・地域に開かれた保育
4	保育所の今日的課題　・幼保一体化、認定子ども園
5	保育実習の意義と目的　・実習とは・実習で学ぶこと、保育実習準備
6	保育実習の意義と目的　・実習記録の意義・記録の方法、書き方、保育の反省
7	望ましい保育者像をめざして　・保育者としての人格や態度
8	保育内容と方法　・改定保育所保育指針による保育目標、保育環境
9	保育過程と指導計画　・カリキュラム、指導案の立て方
10	保育の実際　・基本的生活習慣、健康安全の管理と指導、遊びとその指導の振り返り。
11	0
12	0
13	0
14	0
15	0

[使用テキスト・参考文献]	[単位認定の方法及び基準]
知りたいときにすぐわかる幼稚園・保育所・児童福祉施設実習ガイド	・授業内小テスト、出席、授業態度　　・実習日誌評価、実習園からの評価 (試験やレポートの評価基準など) 総合評価で60点以上を合格とする。

授業概要

（科目名）	授業の種類	授業担当者
保健医療サービス	講義	関根　麻美

授業の回数	（単位数）※		配当学年	必修・選択	実務経験
15コマ	1	単位	第3学年	選択必修Ⅰ	○

［授業の目的・ねらい］
近年、高齢者、難病・重度の障がい者等社会福祉援助対象の拡大に伴い、医療との関わりが欠かせない利用者（クライエント）が増え、ソーシャルワーカー（MSW）は、医療分野との連携に重要な役割を担うようになった。本講義では、保健医療分野の基本的な知識及び、医療ソーシャルワーカー（MSW）の役割について理解を深め、利用者が速やかに安全・安心な在宅生活を送ることができるような支援技法の習得を目指す。

［授業全体の内容の概要］
医療法の概要や医療保険制度と診療報酬、保健医療サービスの概要、医療に関る専門職の役割と実際、保健医療サービス関係者との連携の在り方等について、テキスト及び時事的な問題やビデオを教材として取り上げ、基本的な事項を学ぶ。以て、医療ソーシャルワーカー（MSW）の役割と課題について理解を深める。

［授業修了時の達成課題（到達目標）］
医療保険制度や保健医療サービスの基本的な内容を習得し、クライエントの退院・地域移行支援や地域生活支援の重要性を理解している。更に、地域生活を支える専門職チームの一員として、適切な役割を果たすという意識と基本的能力が身についている。

コマ数	内　　容
1	保健医療サービスとは何か　その対象者について
2	戦後の保健利用サービスの変遷と今日の課題（医療法の改正を中心に）
3	保健医療サービスを提供する施設①～医療法による施設
4	保健医療サービスを提供する施設②～保健医療政策、その他に基づく医療施設
5	介護保険法による施設及び在宅支援のシステム
6	医療ソーシャルワーカーの歴史・業務・役割
7	医療ソーシャルワーカー業務指針
8	保健医療サービスの専門職について（保健師、看護師、作業療法士、理学療法士、言語療法士等の役割）
9	保健医療サービス専門職の倫理・行動規範
10	医療保険制度について
11	診療報酬制度
12	介護報酬・公的負担医療制度等
13	保健医療サービスにおける専門職の連携～チームケアについて
14	地域の社会資源との連携と地域包括ケアシステムの形成と課題
15	まとめ・定期試験・解説

［使用テキスト・参考文献］	［単位認定の方法及び基準］
保健医療サービス（新社会福祉士養成講座 中央法規出版）	試験・レポート・出席状況・授業態度等総合評価
	（試験やレポートの評価基準など）
	小テストの平均点60点以上　定期テスト60点以上　レポート類はA、B、C評価でC以上

授業概要

(科目名)	授業の種類	授業担当者
相談援助の理論と方法	演習	大西　史浩

授業の回数	(単位数) ※		配当学年	必修・選択	実務経験
15コマ	1	単位	第3学年	選択必修1	○

[授業の目的・ねらい]
ソーシャルワーカーは、利用者の最善の利益の確保・獲得を目指し、ソーシャルワークを展開する。ソーシャルワークには、様々な実践モデルがありアプローチがある。ジェネラリスト・ソーシャルワーカーとしての、視野、視点、方法、技術を学び、アプローチの実践方法と技術について理解を深めることを目指す。

[授業全体の内容の概要]
ジェネラルソーシャルワーカーとしてのソーシャルワークを展開し深めるため、事例を考察することも取り入れる。また、ソーシャルワーカー自身がエンパワメントされるためのスーパービジョンとコンサルテーション、ケースカンファレンスの意義と目的、個人情報の保護の基本的な理解、情報通信技術の活用等を学ぶ。

[授業修了時の達成課題（到達目標）]
ジェネラリスト・ソーシャルワーカーは、多種多様な分野・領域において、個別的で具体的な、そして特殊な対象・状況に対し、専門性と実践力を発揮し、実践成果が求められる専門職であることを理解し、基本的態度・能力が身についている。

コマ数	内　　容
1	オリエンテーション（講義内容と進め方・評価方法の説明）
2	様々な実践モデル
3	様々なアプローチ①（心理社会・機能的アプローチ）
4	様々なアプローチ②（問題解決・課題中心アプローチ）
5	様々なアプローチ③（危機介入・行動変容アプローチ）
6	様々なアプローチ④（エンパワメント・ナラティブアプローチ）
7	様々なアプローチ⑤（その他のアプローチ）
8	スーパービジョンとコンサルテーション
9	ケースカンファレンスの技術
10	個人情報の保護
11	情報通信技術（ICT）の活用
12	相談援助の実際①児童虐待が疑われた事例
13	相談援助の実際②発達障害への支援事例
14	相談援助の実際③ソーシャルアクションにつながった事例
15	まとめと定期テスト

[使用テキスト・参考文献]	[単位認定の方法及び基準]
『相談援助の理論と方法Ⅱ』新・社会福祉士養成講座　中央法規出版	出席・小テスト・定期試験で総合的に評価する。 [試験やレポートの評価基準など] 総合評価で６０点以上を合格とする。

授業概要

〔科目名〕	授業の種類	授業担当者
相談援助の理論と方法	演習	大西　史浩

授業の回数	〔単位数〕※		配当学年	必修・選択	実務経験
15コマ	1	単位	第3学年	選択必修1	○

〔授業の目的・ねらい〕
施設から地域へと支援の場が移行しつつある現在，「地域を基盤としたソーシャルワーク」に関る支援技法の習得は，ソーシャルワーカーにとって重要な課題である。本講義ではこれらの支援技法やその展開過程等の理論や原則を学び，理解を深めることを目指す。

〔授業全体の内容の概要〕
相談援助の対象が，家族，集団，地域であることを理解し，それらの特性及び関り方を学ぶ。次に，地域生活を支える基本的支援技法であるケース（ケア）マネジメント及びそれと密接に関わる社会資源の開発・活用，コーディネーションそして，ソーシャル・サポート・ネットワークの形成等について，高齢者や障がいのある方の地域生活・就労支援の事例を通して学ぶ。更に，集団理論，システム理論に基づき，グループを活用したミクロ，メゾレベルでの支援技法及び，チームワークに必要なケアカンファレンスの意義と方法を理解し，メゾからマクロレベルに至るまでの支援技法を

〔授業修了時の達成課題（到達目標）〕
高齢者や障害者が地域で生活するための支援方法を理解・習得し，実践につなげることができる。集団を活用した相談援助の学習を通して，個別から集団・組織へと支援の視野を広げることができる。これらの力を獲得することによりジェネラリスト・ソーシャルワーカーとしての基本的態度・能力が身についている。

回数	内　　容
1	相談援助の対象（ミクロ～メゾ～マクロへ）
2	ケース（ケア）マネジメントの意義とプロセス
3	ケアプランの作成（施設編）
4	ケアプランの作成（居宅編）
5	ケースマネジメントとソーシャルワーク
6	集団を活用した相談援助（知的障害者施設でのグループワーク）
7	自助グループ，サポートグループ，当事者組織とソーシャルワーカーの役割
8	コーディネーションの目的と方法
9	ネットワーキングの目的と方法
10	ケアカンファレンスの目的と方法
11	ケアカンファレンスの実際
12	社会資源の開発とソーシャル・サポート・ネットワークの形成
13	社会資源の開発とソーシャルアクション・地域ケアシステムづくり
14	生活モデル・医学モデルとジェネラリスト・ソーシャルワーク
15	まとめと定期試験・解説

〔使用テキスト・参考文献〕	〔単位認定の方法及び基準〕
相談援助の理論と方法Ⅱ　（新社会福祉士養成講座　中央法規出版）	テスト・レポート・出席状況・授業態度等総合評価
	（試験やレポートの評価基準など）
	小テスト平均点60点以上，定期テスト60点以上，レポート面はA B C 評価で以上

授業概要

〔科目名〕	授業の種類	授業担当者
福祉行財政と福祉計画	講義	中本 直弘

授業の回数	〔単位数〕※		配当学年	必修・選択	実務経験
15コマ	2	単位	第3学年	選択必修1	○

〔授業の目的・ねらい〕
1．社会福祉主事として必要な「福祉行財政と福祉計画」の基本的知識を修得していく。2．同上の知識が保育・養護の実践場面で、どう活用され、どのような課題を抱えているか理解していく。3．上記の過程を通して、保育士・社会福祉主事に求められる豊かな人格形成に努める。

〔授業全体の内容の概要〕
1．国と地方自治体の福祉行財政とその役割を理解する。2．福祉行政の組織と実施体制を理解する。3．福祉計画の概念と具体的な実践方法について理解する。

〔授業終了時の達成課題（到達目標）〕
1．保育士・社会福祉主事に必要な「福祉行財政と福祉計画」の基礎的知識を修得している。2．上記の知識が社会福祉主事業務や保育・養護の実践場面においてどう活用され、どのような課題を抱えているか理解している。3．以上の過程を通して、社会福祉主事に求められる豊かな人格の基盤が培われている。

回数	内　　容
1	社会福祉の実施体制
2	国の福祉行政とその役割
3	地方自治体の福祉行政とその役割
4	国の社会福祉財政
5	地方自体の社会福祉財政
6	福祉行政の組織①
7	福祉行政の組織②
8	福祉行政における専門職
9	福祉計画の目的
10	福祉計画の概念と類型
11	福祉計画の主体と過程
12	福祉計画におけるニーズ把握
13	福祉計画における評価
14	福祉計画における住民参加
15	まとめ：授業全体の総括

〔使用テキスト・参考文献〕	〔単位認定の方法及び基準〕
1．社会福祉学習叢書「社会福祉概論Ⅱ」（前項社会福祉協議会）2．「社会福祉小六法」（ミネルヴァ書房）	1．小テスト　：70％　　2．授業態度・意欲：30％の総合評価 （試験やレポートの評価基準など） 1．小テスト：5点×14回＝70点　2．授業態度：2点×15回＝30点　【合計】　100点満点：80点以上A・70点以上B・60点以上C・60点未満D（不合格）

授業概要

〔科目名〕	授業の種類	授業担当者
福祉サービスの組織と経営	講義	木本　明

授業の回数	〔単位数〕※		配当学年	必修・選択	実務経験
15コマ	2	単位	第3学年	選択必修1	○

〔授業の目的・ねらい〕
1990年代以降の社会福祉基礎構造改革に代表される政策の転換は、民間事業体を社会福祉領域へ導入させた。そのため、今日の社会福祉サービスにおいては、援助に関する様々な供給主体が存在する。本講義では、現在の社会福祉サービスを経営の観から検討する。

〔授業全体の内容の概要〕
①福祉サービスの組織や団体について学ぶ。　②福祉サービスの経営と管理運営の方法について学ぶ。

〔授業修了時の達成課題（到達目標）〕
今日の福祉サービスが、どのような組織や団体によって運営・経営されているのか、そして、福祉サービスの管理の方法としてどのようなものが挙げられるのかについて理解する。

コマ数	内　　容
1	社会福祉領域への企業の参入に関する沿革（措置から契約へ）①
2	社会福祉領域への企業の参入に関する沿革（措置から契約へ）②
3	介護保険事業者の経営問題①
4	介護保険事業者の経営問題②
5	社会福祉施設における事業計画①
6	社会福祉施設における事業計画②
7	社会福祉施設における人事労務管理①
8	社会福祉施設における人事労務管理②
9	リスクマネジメント①
10	リスクマネジメント②
11	社会福祉施設における情報（記録）管理①
12	社会福祉施設における情報（記録）管理②
13	社会福祉サービスにかかわる組織や団体①
14	社会福祉サービスにかかわる組織や団体②
15	期末試験

〔使用テキスト・参考文献〕	〔単位認定の方法及び基準〕
『新・社会福祉士養成講座』『福祉サービスの組織と経営』中央法規	毎回実施する小テスト及び期末試験の結果による （試験やレポートの評価基準など） 総合評価で６０点以上を合格とする。

授業概要

〔科目名〕	授業の種類	授業担当者
低所得者に対する支援と生活保護制度	講義	永本　明

授業の回数	〔単位数〕※		配当学年	必修・選択	実務経験
15コマ	2	単位	第3学年	選択必修	○

〔授業の目的・ねらい〕
貧困・低所得問題の実態を認識したうえで生活保護制度の目的・仕組みを学び、セーフティーネット機能としての意義と役割を理解する。

〔授業全体の内容の概要〕
①現代における貧困・低所得問題について学ぶ。　②諸外国の公的扶助制度を日本の生活保護制度と比較し学ぶ。③生活保護制度の実施体制・仕組み・手続き・保障水準・決定と実施過程を学ぶ。　④我が国のセーフティネットについて学ぶ。　⑤自立支援と公的扶助CWの役割，具体方法について学ぶ。

〔授業修了時の達成課題（到達目標）〕
公的扶助CWとして、被保護者の人権擁護の視点と職業倫理を身につけ，被保護者の自立と最善の利益のために機能する知識と能力を身につける。

コマ数	内　　容
1	公的扶助の概念／諸外国との比較
2	現代における貧困・低所得者問題（相対的貧困と絶対的貧困，日本の貧困の特徴）
3	わが国の社会福祉・社会保障の構造／社会保険，公的扶助，社会手当⇔私的保険
4	公的扶助制度の歴史
5	生活保護制度の実施体制（国・地方自治体・財政／福祉事務所の変遷と専門職員の配置）
6	生活保護の動向と課題（保護率，開始廃止，保護水準等）
7	生活保護の目的と原理原則
8	被保護者の権利と義務
9	生活保護の実施過程（最低生活費の算定方と扶助費，自立支援プログラム）
10	公的扶助とソーシャルケースワーカーの役割と実際（1）
11	公的扶助とソーシャルケースワーカーの役割と実際（2）／事例（申請から開始）
12	公的扶助とソーシャルケースワーカーの役割と実際（3）／事例（自立支援）
13	低所得・貧困層への他施策（母子・子どもの貧困，ワーキングプアー，ホームレス等）
14	生活保護制度をめぐる今後の課題／ソーシャルケースワーカーへの期待
15	まとめと定期テスト

〔使用テキスト・参考文献〕	〔単位認定の方法及び基準〕
①「新・社会福祉士養成講座16　低所得者に対する支援と生活保護制度」中央法規（最新版）　②「ワイド版　社会福祉小六法　資料付」ミネルヴァ書房	①講義後のレポート（30%）　②定期テスト（70%）
	〔試験やレポートの評価基準など〕
	〔記述形式の場合〕①設問を理解し，全てに回答しているか　②記述に誤ちや矛盾がないか　③参考文献・資料を理解し，自分の言葉で記述しているか（丸写しは，大幅に減点）

授業概要

(科目名)	授業の種類	授業担当者
就労支援サービス	講義	木本 司

授業の回数	(単位数) ※		配当学年	必修・選択	実務経験
10コマ	1	単位	第3学年	選択必修1	○

[授業の目的・ねらい]
①相談援助活動において必要となる各種の就労支援制度について理解する。
②就労支援に係る組織・団体及び専門職について理解する。
③就労支援分野との連携について理解する。

[授業全体の内容の概要]
テキストを中心に、事例や各種資料を織り交ぜながら学習を進める。また、知識の定着を図り、且つ、理解度を深めるため、毎回小テストを実施する。

[授業修了時の達成課題(到達目標)]
就労支援を必要とする人々の現状を理解し、わが国の労働施策や就労支援制度についての知識を深め、各専門職の役割、及び福祉専門職が果たすべき役割を認識する。

回数	内容
1	就労支援と福祉専門職の役割　雇用・就労の動向
2	労働に関する法律と制度
3	障害者福祉施策・雇用施策における就労支援
4	特別支援学校における就労支援　障害者雇用における民間企業の取り組み
5	低所得者等の就労の現状①
6	低所得者等に係る就労支援②
7	低所得者等に係る就労支援
8	就労支援における専門職の役割①
9	就労支援における専門職の役割②
10	期末試験
11	0
12	0
13	0
14	0
15	0

[使用テキスト・参考文献]	[単位認定の方法及び基準]
『就労支援サービス』社会福祉士養成講座編集委員会編	出席点、小テスト、定期試験で総合的に評価する。 (試験やレポートの評価基準など) 総合評価で60点以上を合格とする。

授業概要

(科目名)	授業の種類	授業担当者
権利擁護と成年後見制度	講義	木幸 明

授業の回数	(単位数) ※		配当学年	必修・選択	実務経験
15コマ	2	単位	第X学年	選択必修I	○

[授業の目的・ねらい]
認知症を患う高齢者をはじめ、社会福祉サービスを利用する人の中には判断能力が十分とは言えない人がいる。そのような人々の権利を護る仕組みとして成年後見制度や日常生活自立支援事業がある。本科目では、これらの制度の仕組みを学ぶことを中心に権利擁護の制度について理解することを目的とする。

[授業全体の内容の概要]
①成年後見制度の仕組み、制度運用の実際、制度の課題を学ぶ。②日常生活自立支援事業の仕組み、制度運用の実際、制度の課題を学ぶ。③権利を護る仕組みと専門職の必要性、および多職種・多機関との連携の必要性を学ぶ。

[授業修了時の達成課題(到達目標)]
多職種・多機関を連携しながら権利擁護を実践するための基礎的知識を身に付ける。

回数	内容
1	相談援助の活動と法①
2	相談援助の活動と法②
3	成年後見制度①
4	成年後見制度②
5	日常生活自立支援事業・成年後見制度利用支援事業①
6	日常生活自立支援事業・成年後見制度利用支援事業②
7	権利擁護にかかわる組織・団体①
8	権利擁護にかかわる組織・団体②
9	権利擁護にかかわる専門職の役割①
10	権利擁護にかかわる専門職の役割②
11	成年後見活動の実際①
12	成年後見活動の実際②
13	権利擁護活動の実際①
14	権利擁護活動の実際②
15	定期試験

[使用テキスト・参考文献]	[単位認定の方法及び基準]
「新・社会福祉士養成講座19　権利擁護と成年後見制度」中央法規(最新版)	出席点・小テスト、定期試験で総合的に評価する
	[試験やレポートの評価基準など]
	論述形式の場合は、基本的な文章表現の作法が守られていること、文章全体の展開が論理的であること、自分が感じ・考えた事が他者に伝わるように具体的に言語化されていることが基準として挙げられる。

授業概要

（科目名）	授業の種類	授業担当者
相談援助演習	演習	岡根　雅美

授業の回数	（単位数）※		配当学年	必修・選択	実務経験
15コマ	2	単位	第3学年	選択必修1	○

[授業の目的・ねらい]
集団援助技術の技法を事例を用いて学ぶ。ロールプレイにより，グループの理解，集団力動性を学び，利用者理解とともに自己への気づきをもとに援助技術を高める。また，地域にある課題を理解し，ニーズの把握・実践の方法を体験的に学ぶ。

[授業全体の内容の概要]
身近な問題から始め，障害者・高齢者・ホームレス・ひきこもり・ニート問題など様々な社会的な排除を受けている人々などの地域にある問題まで，様々な事例を用いてニーズを把握し，アセスメント，プログラミング，評価をすることによって，集団援助技術と地域援助技術を学ぶ。さらに，自分の住む地域での実践の場への参加を課題とする。

[授業修了時の達成課題（到達目標）]
集団援助技術の理論を体験により具体的な理解と実践できる力を養う。また，個人や家族，地域にある課題を事例として用いることにより，地域ニーズを把握し，人権・権利擁護の理解を深め，アウトリーチの展開・コミュニティへのアプローチ，ネットワーキングのあり方などを学ぶ。さらに，現場での体験で理解を深めワーカーとして養うべき資質を実感する。

回数	内　　容
1	グループワークの共通技術Ⅰ（対象の設定・枠組みの構想・対象者理解）
2	グループワークの共通技術Ⅱ（ロールプレイによるグループでの話し方・傾聴の技法，相互作用の促進）
3	グループワークの共通技術Ⅲ（集団規範の形成・プログラム分析と立案・プレゼンテーション）
4	グループワークの過程技術Ⅰ（準備・波長あわせ・初回セッション・相互システム形成の理解）
5	グループワークによる相互援助システムの理解と活用
6	グループワークの終結と移行（援助者の役割について検討）
7	地域住民に対するアウトリーチとニーズ把握（基本的に自分の住む地域を対象とする）
8	地域ニーズの理解と社会資源の活用・調整・開発についてグループワーク
9	組織内でのネットワーキング・コミュニティネットワーク形成について理解Ⅰ（実践の場への参加）
10	組織内でのネットワーキング・コミュニティネットワーク形成について理解Ⅱ（実践の場への参加）
11	コミュニティワーク実践現場報告（グループ内で検討・プレゼンテーション）
12	コミュニティワーク事例検討Ⅰ（地域ニーズの発見・地域へのアプローチの方法理解）
13	コミュニティワーク事例検討Ⅱ（実践の方法・組織化と資源開発への理解）
14	コミュニティワーク事例検討Ⅲ（地域福祉の計画を考える）
15	まとめ（プレゼンテーションと評価）

[使用テキスト・参考文献]	[単位認定の方法及び基準]
なし	テストの成績及び通常授業における授業態度，参加度・提出物等を評価 （試験やレポートの評価基準など） 総合評価で６０点以上を合格とする。

授業概要

(科目名)	授業の種類	授業担当者
人間と死	講義	内田　智美

授業の回数	(単位数) ※		配当学年	必修・選択	実務経験
15コマ	2	単位	第3学年	選択必修1	○

[授業の目的・ねらい]
死をみつめることで死を準備することであり，生を十二分に生ききることに繋がります。死を考えることは，生きること・幸せについて考えるきっかけになる。自己成長だけでなく，支援者として他者の人生を深く見つめることができることを目指す。

[授業全体の内容の概要]
「死」と「生」をみつめることを捉えやすいよう映像などを用いて授業を展開する。

[授業修了時の達成課題（到達目標）]
・「死」をみつめることは，よりよく生きることを理解することができる。
・支援者として他者の人生をみつめることの意味を知ることができる。

回数	内　　容
1	オリエンテーション（授業の目的・概要説明）_ 自己紹介
2	人間と人間関係（講義・演習）
3	生きること①（講義・演習）
4	生きること②（講義・演習）
5	生きること③（講義・演習）
6	生きること④（講義・演習）
7	生きること⑤（講義・演習）
8	死ぬこと①（講義・演習）
9	死ぬこと②（講義・演習）
10	死ぬこと③（講義・演習）
11	死ぬこと④（講義・演習）
12	死ぬこと⑤（講義・演習）
13	諸外国の死①（講義・演習）
14	諸外国の死②（講義・演習）
15	諸外国の死③（講義・演習）

[使用テキスト・参考文献]	[単位認定の方法及び基準]
なし	授業参加態度，レポートなどを総合的に判断する。 （試験やレポートの評価基準など） 総合評価で６０点以上を合格とする。